

同窓会報



鳥羽商船同窓会

三重県鳥羽市池上町1番1号

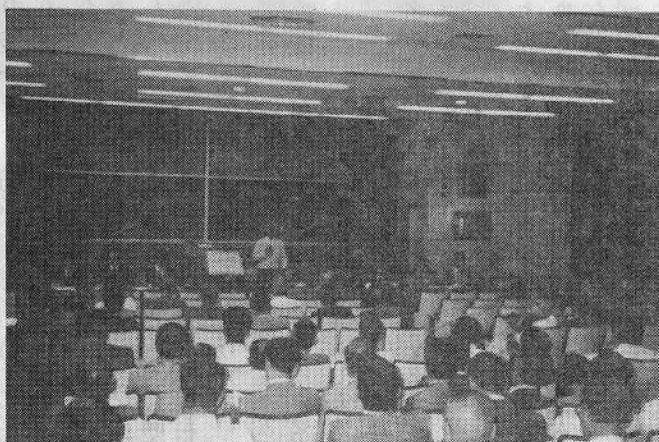
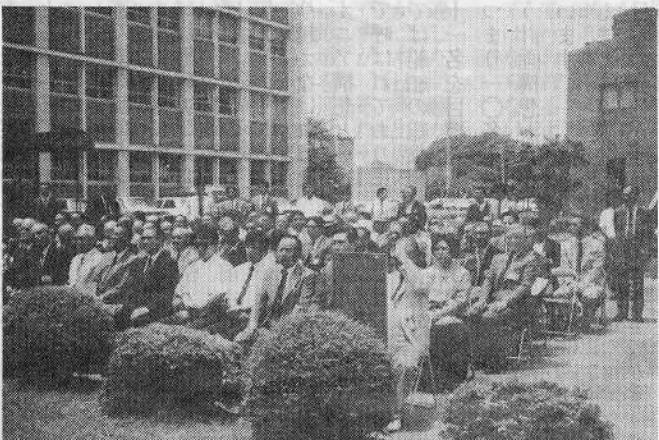
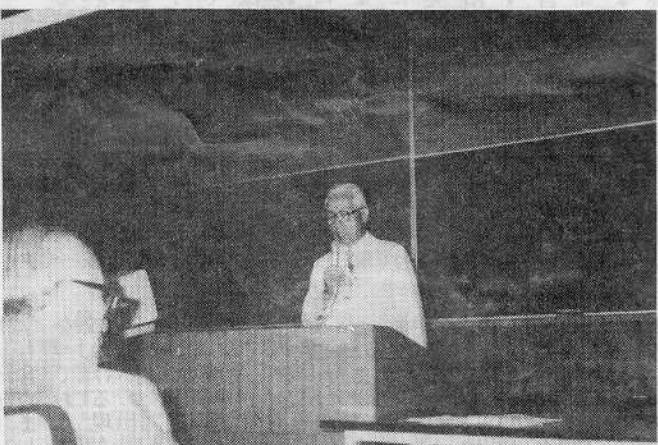
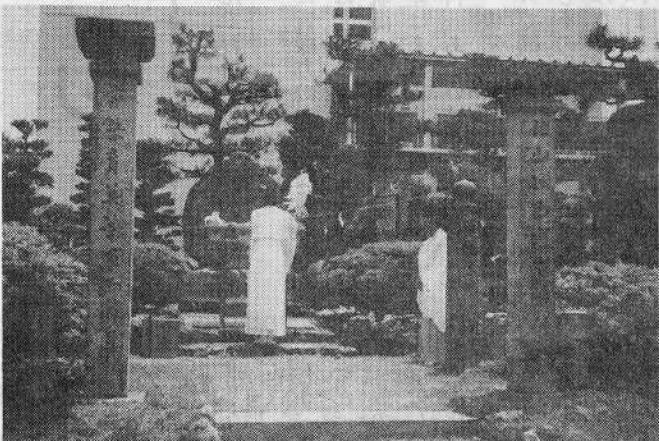
郵便番号 517

TEL 代表 鳥羽(0599)25-3137

FAX 鳥羽(0599)25-6941

振替番号 名古屋5-846

昭和62年度総会・慰靈祭特集号



右上 会長挨拶
左上 慰靈祭
左中 遺族を含む
左下 参景
右下 同窓会風

昭和六十二年度総会は、六月七日に母校において開催されました。総会に先立ち、校祖近藤真琴先生慰靈祭及び物故者合祀祭が行われました。

本部便り

総会報告

総会次第

- 一、会長挨拶
- 二、昭和六十一年度会務報告
- 三、昭和六十一年度会計報告
- 四、会計監査報告
- 五、役員の改選
- 六、会則の改正
- 七、昭和六十一年度事業報告
- 八、その他
- (口)今後の同窓会活動のあり方

会長挨拶 和田春生

本日は大変お忙しいところ、会員の皆様には多数総会に御出席下さいまして有難うございました。いざれのちほど矢島校長より母校が目下かかえている問題については詳しい説明があるかと存じます、私共同窓会がどう対応すべきかという点につきまして、私自の意見をまじえまして私からか

すでに皆様方のお耳には入っています。いつまんでお話申し上げたいと存るとは思いますが、商専高専はかつて航海・機関両学科で学校によって差はあります。が、航海学科二、機関学科一あるいはその逆で、航海学科一、機関学科二」というように三クラスで構成されていました。しかしその後海運界が不況に陥化に伴いまして、船舶職員の絶体的な需要数がどんどん減つて参りました、そういう過程から、二クラスある航海、機関学科のうち一クラスを陸上向けすなわち工業向に改組しまして、母校におきましては電子機械工学科が設置されました。そして航海、機関学科の学生と同様本会の準会員として学んでいるわけであります。

さらにこの内容が一層急進展して参りました、特に近代船の実験がすでにA段階は実証実験が終りまして実用段階になつております。B段階も実用段階に足をつけております。さらにC段階すなわち従来で言えば船長、機関長といわれる船舶のトップが仮の名前ではあります。さらにC段階すなわち航

航コース二十名、機関コース二名の定員とするものであります。そこで母校の場合は構成としましては商船学科のほかすでに発足しております。さらには電子機械工学科、も

科が置かれるようになります。そこの在学生に関する限り、ゆくゆくは船に乗る立場の学生は少数になります。併せて日本海運の国際競争力を回復するといいますか将来に向って維持するためには積極的にこれを推進しなければいけないのであります。いまから近代化をさりまして、この点から近代化をさらにもう一つ乗り越えなければなりません。バイオニア構想という

すが、差し当つては船舶の総乗組員を近代化船で十一名を目標としやがては一桁代つまり一〇名未満で運航するという計画構想があるのが現状でございます。

この点と関連しまして卒業生が船舶職員として日本の会社が運航する外航船舶に乗る状況も商船大

学も含めましてその割合は少なく

なっております。そこで商船高専

生は多過ぎるので、各校とも航

海、機関学科を一学科にまとめま

して、一学科を陸上工業関係に改組するという話が出て参りました。

これは現在具体的に話が進んで

おります。すなわち商船学科とし、

でも商船大学は卒業するが「我々

は海の職場につかない」ので海洋会

に入る必要がない」という卒業生

が増えてきているそうで、やがて

は私共にもそのような例が出てくるのではないかと思われます。

総会の案内状にも母校の変更に

ついてのアンケートをお願いして

あります。しかしいう事態のとき

こそ色々な意味で從来の母校の伝

統を引継いでこれを守つて行くと

いう重要な責務もあるわけであり

まして、母校の先輩であります私

共の肩にかかるべきであります。

全船協の場合も同様に会員数が減つて参りますが、商船高専の新

しい改革模様がえにつきましては、

一航一機を含みました実証実験の段階に移ろうとしているのであります。

併せて日本海運の国際競争力を回復するといいますか将来に向って維持するためには積極的にこれを推進しなければいけないのであります。いま直ちに同窓会の課題というわけではありませんが今まで維持するためには積極的にこれをして、この点から近代化をさりまして、この点から近代化をさらにもう一つ乗り越えなければなりません。バイオニア構想という

すが、差し当つては船舶の総乗組員を近代化船で十一名を目標としやがては一桁代つまり一〇名未満で運航するという計画構想があるのが現状でございます。

さてそうなりますと、果して商船高等専門学校という名称が適切であるかどうかという点で重要な課題となつて参ります。

同窓会の場合はいづれの場合も

船舶職員として日本の会社が運航

する外航船舶に乗る状況も商船大

学も含めましてその割合は少なく

なっております。そこで商船高専

生は多過ぎるので、各校とも航

海、機関学科を一学科にまとめま

して、一学科を陸上工業関係に改

組するという話が出て参りました。

これは現在具体的に話が進んで

おります。すなわち商船学科とし、

でも商船大学は卒業するが「我々

は海の職場につかない」ので海洋会

に入る必要がない」という卒業生

が増えてきているそうで、やがて

は私共にもそのような例が出てく

るのではないかと思われます。

総会の案内状にも母校の変更に

ついてのアンケートをお願いして

あります。しかしいう事態のとき

こそ色々な意味で從来の母校の伝

統を引継いでこれを守つて行くと

いう重要な責務もあるわけであり

まして、母校の先輩であります私

共の肩にかかるべきであります。

全船協の場合も同様に会員数が

減つて参りますが、商船高専の新

しい改革模様がえにつきましては、

地方に位置しております五つの商船高専の中央における連絡等に置きまして全船協が御協力申し上げておるわけであります。商船高専の校長先生が上京の際には単独にあるいは御一緒にお寄り下さっております。

そして従来の良い伝統を残して、新しい時代にどう対応すべきかと相談させて戴いております。そういう点では運輸省との折衝もござります。あまり長くなりますが、今のような状況になりますと海技免状の在り方、また、試験の内容等が併せてこないと問題になります。

切角新しい教育を受けた私共の後輩がとまどいます。現に働いております一航や一機の人々が果してその上がどうなるのか、端的にいいますと機関長から船長になれるとかという問題が出て参ります。

資格問題は関係者にとつてはそれれ死活問題に擊つて参りますので、船舶職員の資格、試験制度等が大変関心を呼んでおります。

私も委員をしております運輸省の海上安全船員教育審議会においても先般来運輸省の船員行政の中でとりわけ船舶職員が中心となつて運航して行く船の場合には資格試験制度が従来のような航海、機関の二列縦隊では実態に合わないことになるので、この問題について積極的に審議会においても将来における指標を明らかにする必要がある

あります。そうしないと現在海上第一線で働いている人が非常に困ることになり、新しく学校を卒業する人にとっては重要な問題があります。

この点について充分取り組んで行なうという考え方を示されております。

その一環として先日も五商船専の当番校として母校の矢島校長先生がお見えになりまして、私共と御一緒に運輸省の船員部長尋ねまして、本音で議論いたしましたと話合つたわけでございます。

そうした面で足もとが見えて参るわけでありまして、同窓会ががんばりませんと大変な問題になります。私は全船協の会長としましてはそんなことはうつかり言えません。五商船高専は固く結束して参りましようとなねづね主張していきますとつねづね主張していきます。

短大や五十を越す工業高専に比較しますと商船高専は非常に小さい勢力構成となつております。やはりそうした意味で商船高専を支えて参りました同窓会あるいは全船協が学校当局をバックアップし乍ら、その改革がスムーズにしかもその展望を以て行われるようにやって行かなくてはならないのであります。

今後これに関連した問題が出て参ると思いますが、本日御出席の皆様はもちろんですが、それぞれのクラスあるいは地域を通じて連帯を深め乍らある同窓会の活動発展を期待するため格別の御支援、御協力を皆さん自身の問題として取組んで戴きますように切にお願い申上げる次第でございます。

過去一年間今日まで同窓会として活動して参りました。これに対しまして皆さんの御協力に対しまして厚く御礼申し上げますと共に船舶の近代化が進んでも、昭

に私の報告とさせて戴きます。

(一) 同拍手
「事務局において録音テープから判読しました」

昭和六十一年度

会務報告 落合理事

お手許にあります配布資料に基
きまして報告します。

一、会員の移動

(1) 新入会員

正会員	N科	二四名
E科	四三名	
計	六七名	

(2) 物故会員

正会員	N科	一、三六二名
E科	一一名	
計	一、五九二名	

二、会員数

正会員	N科	一、九五四名
E科	八名	
計	一、九五四名	

特別会員	N科	八名
E科	四名	
計	一二名	

(1) 総会 準会員(在学生)

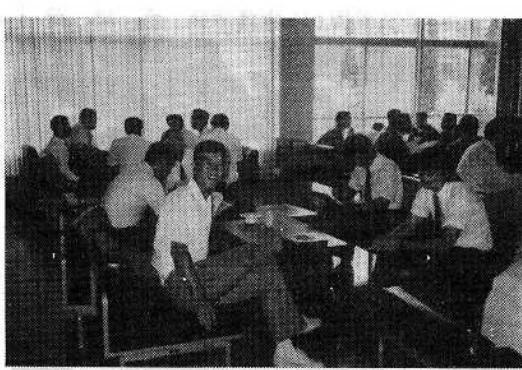
正会員	N科	一八二名
E科	二五〇名	
M科	一二〇名	

計

五五二名

(2) 理事会

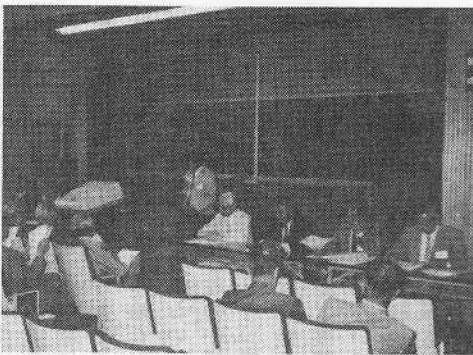
(1) 総会	(準会員は四月一〇日現在)	昭和六一年六月八日母校にお
		いて開催され八三名の会員が立席されました。



総会前の団らん風景



出席の大先輩



会務・会計報告

初日印捺印局として指定されたことから、特製の絵ハガキ入り切口カバーを発行し、会員の希望者及び全学生に配布して校祖の偉業をたたえました。

(5) 対外活動
イ、五商船高専カッターレース支援 七月
ロ、日本外洋帆船協定主催バルレース支援 七月
ハ、商船教育一一〇周年記念事業協賛 七月

二、卒業祝賀パーティー共催

九月

ホ、近藤家近藤真琴先生百年祭九月

ヘ、学生会支援 九月

ト、攻玉社近藤真琴先生百年祭一〇月

チ、海学祭支援 一月

リ、全船協活動への協力（新会員の加入など）

(6) 支部との対応

大阪支部総会 六一年五月一六日 落合理事出席

四日市支部総会 六月二二日 落合、斎藤理事出席

神戸支部総会 五月二三日 落合理事出席

名古屋支部総会 一月一五日 落合、斎藤理事出席

京浜支部総会 一月二八日 斎藤理事出席

なむ六二年三月二日非公式

落合理事が函館支部幹部と会合し、青函連絡船関係会員の配転などについて説明を受けまし

(4) 初日カバーの発行

昭和六一年七月二六日に商船教育一一〇周年を記念して校祖近藤真琴先生の肖像入りの記念

切手が発行され、鳥羽郵便局が

ことから、特製の絵ハガキ入り切口カバーを発行し、会員の希望者及び全学生に配布して校祖の偉業をたたえました。

(7) 商船教育一一〇周年記念事業委員会との対応
母校の矢島校長を委員長として構成された商船教育一一〇周年記念事業委員会からの要請に基き、各種行事への協賛について、会員への周知をはかりました。記念シンボジウム、記念切手発行に関連して鳥羽市一番街で開催された切手展などに多数の会員が参加しました。

(8) 就職活動

海運不況に起因する会員の転職に関する対応を強化し、求人活動を開拓かなりの成果をあげました。また新卒者についても、

海上、陸上さらに関係官庁などの活動とは別ルートを以て開拓し成果をあげました。

以上で会務報告を終りますが、今後一層の御協力をお願いします。特に再就職問題につきましての御協力を願いします。

なお会員数が二二八〇〇名を常におられますので事務局の仕事量が非常に多いこともぜひ御理解下さい。

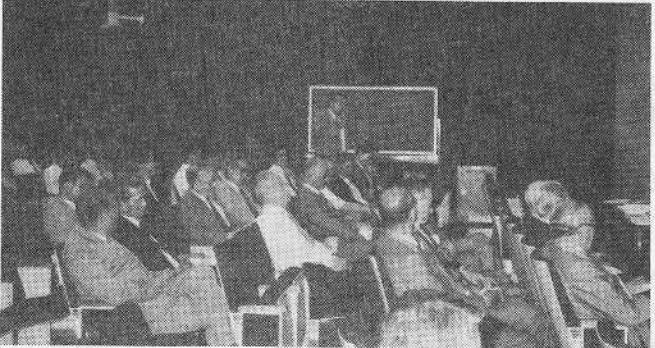
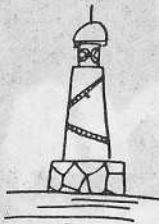


(一同拍手)



上・右上 総会風景

右下 活発な質疑応答



会計報告

落合理事

昭和61年度の一般会計について報告します。資料に計上されていますように、負担金が商船教育110周年記念事業協賛のため例年より多くなっております。

また慶弔費も近藤家主催近藤真琴先生百年祭、攻玉社主催近藤先生百年祭、西島前会長への記念品で例年の三倍近くになりました。

なお会務運営費につきましては昨年同様本部事務局ではこれを専用のコピーマシンの購入をはじめ事務機器の整備に当て返上する形をとっていますので御了承下さい。

基金の部、財産目録につきましても、関係書類一切を持参して会計監査を受けましたことを報告いたします。(一同拍手)

昭和61年度一般会計決算(昭和61年4月1日 - 昭和62年3月31日)

摘要	収入	支出	残高
繰入会員費(新卒67名)	813,406		
会員費(新卒67名2年分)	67,000		
会員費(一般分 延べ756名分)	201,000		
会員名簿売上代金	2,935,800		
会員名簿広告代金	161,300		
同窓会60周年記念史売上代金	60,000		
商船教育110周年初日カバー代金	197,500		
商船教育110周年切手帳代金	112,340		
商船教育110周年切手シート代金	29,600		
利子(普通預金分)	6,000		
利子(定期預金解約分)	1,503		
基金がらの振り替え	502		
負担金卒業祝賀パーティ	284,904		
5商船高専ボートレース		266,640	
学生会攻玉展ほか			
負担金商船教育110周年記念事業関係分立替金	商船教育110周年切手ほか	217,000	
本部総会費用			
支部通信費補助金	116,000		
通信費(郵送料・電話料)	331,820		
会報印刷代金および郵送料(2回分)	322,500		
謝金(3件分)	266,990		
慶弔費近藤真琴先生100年祭御供	1,177,890		
攻玉社近藤先生100年祭御供	118,400		
西島好夫前会長記念品代			
押尾定夫副会長香典・花輪代			
会員死亡慶弔電報ほか			
旅費	304,790		
事務用品・消耗品	197,000		
会務運営補助費	171,460		
雜費	480,000		
振り替え払込料金	10,000		
計	4,870,855	4,028,210	842,645

基金の部決算(昭和62年3月31日)

摘要	要	収入	支出	残高
利子		219,922	284,904 (一般会計に移管)	15,101,998
計		219,922	284,904	15,037,016

財産目録(昭和62年3月31日)

項目	金高	左の内訳	金高
一般会計	842,645	貸付信託(安田信託銀行)	4,850,000
	15,037,016	金銭信託(安田信託銀行)	217,649
		定期預金(第三相互銀行)	4,996,210
		普通預金(第三相互銀行)	161,088
		定額預金(池上簡易郵便局)	5,500,000
		郵便振り替え	54,358
		商船教育110周年切手帳(35部)	19,600
		商船教育110周年切手(20シート)	24,000
		同窓会ネクタイピン(18個)	18,000
		現金	38,756
計	15,879,661		15,879,661

会計監査報告

昭和61年度会務報告書、会費その他金銭受け入れ原簿、収支計算書、基金計算書、財産目録等について、原簿、証券、預金通帳、郵便振替等と照合して監査した結果、いずれも正確かつ適正であったことを認めます。

昭和62年6月5日

会計監査 尾崎幸平印

南秋雄印

役員の改選

落合理事

本年度は会則による役員の改選時期ではあります。が、本部ならびに支部の事情により下記のようないな役員の改選が行われました。

副会長 S16N 佐藤 静雄

(京浜地区担当) 新任

名古屋支部 理事 S22N 加藤 喜作

(S17N 山本太郎氏の後任)

理事 S30N 春口 正一

(S21N 羽根田勉氏の後任)

理事 S52E 加藤 信吾

(S26N 磯村照夫氏の後任)

神戸支部 支部長 S22E 大塙 小重夫

(S19N 東爪佐七氏の後任)

理事 S36E 飛田喜八郎

(S22E 大塙重夫氏の後任)

会費の値上げ

和田会長

現在の年会費及び終身会費は、

谷口元副会長が母校奉職中の十五年以上も前に決定されたものです。

会則の改正

落合理事

以来物価、交通費、通信費等いざれも数倍に上昇しております。本公司の会計についてもお手許の資料でおわかり願えますように、事務局では大変苦心されていること

が伺えます。

落合理事を始めとする母校奉職中の同窓生教官が実際の事務に当つておられるわけですが、従来お

払いしていた運営費も実際には返

上して戴いて会の運営に使用されている状況です。また役員の旅費についても、

いつまでも手弁当で仕事をと

うわけには参りません。健全な会の運営を推進するためには、会員の皆様の御賛同を得まして、若干の会費の値上げをお願いしたいと思

います。年会費は一、五〇〇円を二、〇〇〇円に、終身会費は満六〇才と

いう年令を六五才に引上げ、一〇〇〇円を二〇〇〇〇円に引き

上げさせて戴きますのでよろしく

御協力下さいますようお願い申し

上げます。

昭和六十二年度事業計画

落合理事

なお六〇才以上の方すでに終

身会員の方でももう一度二〇、〇

〇〇円納めてやろうという方は大

歓迎しますし、六十五才以上の方

でも自分は大いに長生きするとい

う方は年会費として毎年支払って

下さつてもよいわけでありますの

でよろしく御了承下さい。

(一同拍手)

昭和六二年度事業計画について
申し上げます。

一、総会

本日六月七日母校において開催しました。

二、理事会

二回を予定し、第一回は六月七日午前九時三〇分より開催し、

昭和六二年度本部総会議案につ

いて審議しました。第二回は九月月下旬あるいは一ヶ月中旬のい

ずれかに開催を予定しています。

三、会報の発行

月二回を予定し第一号は七月中旬に発行し、総会報告ならびに

月下旬あるいは一ヶ月中旬のい

ずれかに開催を予定しています。

四、会報の発行

近藤真琴先生慰靈祭および物故者合祀祭について特集する方針

です。

第二号は新卒業生の就職が確

三、終身会費 一〇、〇〇〇円

(満六〇才以上で会費を完納している者)

とあるところを

二、会費年額 二、〇〇〇円

三、終身会費 二〇、〇〇〇円

(満六五才以上で、会費を完納し、さらに年会費一〇年

分を前納した者)

と改正する。

定する一二月下旬に発行の予定です。

四、会員名簿の発行

会員の移動が予想以上に激しくなりましたので、八月中旬を目標に目下編集中ですが、若干遅れるかも知れません。会員名簿には広告をお願いしたいと思

いますので御協力下さい。

総会の案内を二、八〇〇通発送しましたが返事がありましたのは約半分という状況で、四〇通あまりが転居のため返送されました。会報を年一回発行することにより、会員の移動の把握がある程度可能となりましたが、同時に会報を通じて会と会員の結びつきが増進されるよう思われます。その結果会費の納入状況も向上しているわけであります。

ただ乗船中や単身赴任の会員については家族から渡してもらえない場合も多いようで、この点についての対策が今後必要かと思われます。

会員の動静、支部の活動、クラス会、会員の叙勲・表彰・求人・求職などについても周知するよう計画していますので、関連する記事をお送り下さいます

ようお願いします。

五、对外活動

ハ、日本外洋帆走協会パールレース支援

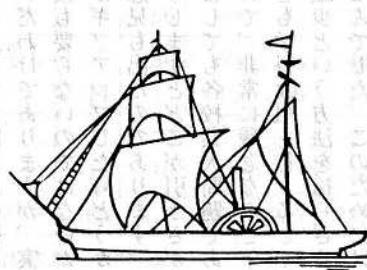
二、学生会・攻玉展など母校に對する支援

三、会員の再就職について推薦

ボ、会員の再就職について推薦の発行や官公庁、協会等団体および企業との折衝などを積極的に推進したいと考えています。

クラスマッチ等クラス会の情報、会員の移動等クラスの幹事との連絡を密に

したいと考えていますので御協力下さい。



総会出席者名簿

(○印は懇親会出席名)

(四二名)

来賓

学校長
教務主事
事務部長

航海科
出席者

田代金吾(S11)、西島好夫(S2)
○堤好造(S3)、○山口平太郎
(S5)、○伊藤邦生(S5)、松永
三良(S6)、藤原圭二(S6)、

○安藤智彦(T10)、○周藤計兄
(T10)、○田畠秋一(S6)、
○神田邦郎(S7)、裕口輝治
(S7)、○深津薰(S7)、
和田春生(S11)、○平石千代松
(S13)、佐藤静雄(S16)、○

山崎修(S16)、○荒川典彌
(S16)、○末崎弘(S17)、
○西川慶堂(S17)、○小原博
(S18)、○中村浅吉(S18)、
○落合武二(S18)、○落合好明
(S18)、○中西勸(S18)、
○前野佳三郎(S18)、裏山惣一
(S19)、○浅野和昭(S19)、
○長谷川俊治(S19)、○山本太
郎(S19)、大久保徳夫(S19/
12)、古妻秀夫(S21)、○清水
芳美(S21)、○井上三二(S21)
○長谷川好道(S21)、○斎藤希
(S22)、○落合弘明(S22)、
○竹内茂七(S24)、○松本暢生
(S26)、○辻裕(S32)、
岩佐四郎(S34)、○船橋晴雄
(S34)、○野田則之(S39)、
○金田護(S42)、武田雄三
(S44)、○山口伸輔(S48)、○

○加藤豊(S57)、○片山竜一
(S58)、

田代金吾(T11)、西島好夫(S2)
○堤好造(S3)、○山口平太郎
(S5)、○伊藤邦生(S5)、松永
三良(S6)、藤原圭二(S6)、

○安藤智彦(T10)、○周藤計兄
(T10)、○田畠秋一(S6)、
○神田邦郎(S7)、裕口輝治
(S7)、○深津薰(S7)、
和田春生(S11)、○平石千代松
(S13)、佐藤静雄(S16)、○

山崎修(S16)、○荒川典彌
(S16)、○末崎弘(S17)、
○西川慶堂(S17)、○小原博
(S18)、○中村浅吉(S18)、
○落合武二(S18)、○落合好明
(S18)、○中西勸(S18)、
○前野佳三郎(S18)、裏山惣一
(S19)、○浅野和昭(S19)、
○長谷川俊治(S19)、○山本太
郎(S19)、大久保徳夫(S19/
12)、古妻秀夫(S21)、○清水
芳美(S21)、○井上三二(S21)
○長谷川好道(S21)、○斎藤希
(S22)、○落合弘明(S22)、
○竹内茂七(S24)、○松本暢生
(S26)、○辻裕(S32)、
岩佐四郎(S34)、○船橋晴雄
(S34)、○野田則之(S39)、
○金田護(S42)、武田雄三
(S44)、○山口伸輔(S48)、○

○松本信行(S48)、○西濱卓巳
(S54)、○砦野哲治(S58)、

(S44)、○佐藤久米男(S49)、
城田均(S51)、○加塚伸吾
(S52)、○河合純一(S53)、
○松山清二(S53)、○中瀬和典
(S54)、○杉本浩幸(S55)、
○加藤豊(S57)、○片山竜一
(S58)、

(四二名)

（○印は懇親会出席名）

学校長
教務主事
事務部長

航海科
出席者

田代金吾(T11)、西島好夫(S2)
○堤好造(S3)、○山口平太郎
(S5)、○伊藤邦生(S5)、松永
三良(S6)、藤原圭二(S6)、

○安藤智彦(T10)、○周藤計兄
(T10)、○田畠秋一(S6)、
○神田邦郎(S7)、裕口輝治
(S7)、○深津薰(S7)、
和田春生(S11)、○平石千代松
(S13)、佐藤静雄(S16)、○

山崎修(S16)、○荒川典彌
(S16)、○末崎弘(S17)、
○西川慶堂(S17)、○小原博
(S18)、○中村浅吉(S18)、
○落合武二(S18)、○落合好明
(S18)、○中西勸(S18)、
○前野佳三郎(S18)、裏山惣一
(S19)、○浅野和昭(S19)、
○長谷川俊治(S19)、○山本太
郎(S19)、大久保徳夫(S19/
12)、古妻秀夫(S21)、○清水
芳美(S21)、○井上三二(S21)
○長谷川好道(S21)、○斎藤希
(S22)、○落合弘明(S22)、
○竹内茂七(S24)、○松本暢生
(S26)、○辻裕(S32)、
岩佐四郎(S34)、○船橋晴雄
(S34)、○野田則之(S39)、
○金田護(S42)、武田雄三
(S44)、○山口伸輔(S48)、○

○安藤智彦(T10)、○周藤計兄
(T10)、○田畠秋一(S6)、
○神田邦郎(S7)、裕口輝治
(S7)、○深津薰(S7)、
和田春生(S11)、○平石千代松
(S13)、佐藤静雄(S16)、○

山崎修(S16)、○荒川典彌
(S16)、○末崎弘(S17)、
○西川慶堂(S17)、○小原博
(S18)、○中村浅吉(S18)、
○落合武二(S18)、○落合好明
(S18)、○中西勸(S18)、
○前野佳三郎(S18)、裏山惣一
(S19)、○浅野和昭(S19)、
○長谷川俊治(S19)、○山本太
郎(S19)、大久保徳夫(S19/
12)、古妻秀夫(S21)、○清水
芳美(S21)、○井上三二(S21)
○長谷川好道(S21)、○斎藤希
(S22)、○落合弘明(S22)、
○竹内茂七(S24)、○松本暢生
(S26)、○辻裕(S32)、
岩佐四郎(S34)、○船橋晴雄
(S34)、○野田則之(S39)、
○金田護(S42)、武田雄三
(S44)、○山口伸輔(S48)、○

りました。

最も悪い引金になつたのは志願者の激減という点にありました。

五九年度の場合は倍率はN科が一・八五倍、E科一・一倍でした

が、六〇年度は新学科が発足したこともありまして、N科一・八倍、

E科一・三倍、電子機械工学科三

が四・四五倍、平均して二・五倍となり、これでやれやれという考えおりましたが、六一年度はN

科は一・〇五倍、E科が一・一五倍、M科が二・三倍、平均して一・五倍でありました。今年は誠に残念でしたがN科〇・八三倍、E科が一・六八倍、M科が二・〇五倍という非常に悪い状態に陥りました。

各校とも学科改組を行うことで定員の縮少という方法を探らざるを得ませんでした。このためには文部省と何回となく会議を持ちまし

ますので、非常に残念なこと乍らこうしますとどこが引きさがるところがギブアップしたらどうかと

いふ意見も出たのであります。

五校が同じように商船学科を残すことにつきましては、ここにお見えになります和田会長の御尽力を仰いだわけですが、実際は五校も要らないのではないか、

どうしますとどこが引きさがるところがギブアップしたらどうかと

いふ意見も出たのであります。

五校が同じように商船学科を残すことにつきましては、ここにお見

えになります和田会長の御尽力を仰いだわけですが、実際

は五校も要らないのではないか、

どうしますとどこが引きさがるところがギブアップしたらどうかと

いふ意見も出たのであります。

五校が同じように商船学科を残すことにつきましては、ここにお見

えになります和田会長の御尽力を仰いだわけですが、実際

は五校も要らないのではないか、

どうしますとどこが引きさがるところがギブアップしたらどうかと

いふ意見も出たのであります。

す。

五校が同じように商船学科を残すことにつきましては、ここにお見

えになります和田会長の御尽力を仰いだわけですが、実際

は五校も要らないのではないか、

どうしますとどこが引きさがるところがギブアップしたらどうかと

いふ意見も出たのであります。

学校長挨拶

矢島澄夫

昭和六〇年に学科改組を行いました。本校では電子機械工学科として本校では電子機械工学科として学年進行中であります。本校の場合は機関学科一クラスを改組しました。

たわけです。

そこでこの電子機械工学科が完

成年度に達するまではまあ大丈夫

だろうと思っておりましたが、思

わぬ円高等状況が急激に悪化しま

したので、本年二月頃から予期以

上に早く問題が生じたのであります。

私共商船高専の校長会では会議を持ちまして何らかの対応を構じなければならぬぞと話合つてお

きました。

学校としましては手をこまねいでいたわけではありません。相当な費用をかけまして学生募集するわけではありません。それが問題となつたわけであります。

私共としましては何とか現在のままの学科構成で突張るつもりでおりましたが、それが出来なくなつたわけであります。

海事産業研究所あたりの資料によりますと、これから年間船舶職員数は一〇、〇〇〇人前後ではないかと考えられます。そうしますと各校が四〇名ずつとして四〇〇名が二〇〇名と減り、大体よい

結果になりました。これが最後の学科改組として五商船

クラスが残っているのに複合学科

も見て行かなればなりません。教科

が最後の学科改組として五商船

クラスが残っているところであります。

そこで六六年までは現行の四〇

クラスが残っているのに複合学科も見て行かなればなりません。教科

が最後の学科改組として五商船

クラスが残っているところであります。

一方練習船も代船建設の時期が来るわけであります。が定員の縮少ということで、現在と同じ大きさのものは認められません。二〇〇トン未満になる予定であります。なお建物の方については年月をかけることによってある程度解決できることに思われます。

専科大学構成につきましては、大学審議会の方に臨教審から提案されでいるわけであります。国

会の進展が思わしくありませんでしたのでまだ審議会が成立してい

ない状況であります。

いずれこの審議会に乗せられる

ことになりますがそれまでには二・三年かかるようと思われます。

そうなりますと、校名の問題が生じて参ります。工業高専が現在

国公私立合わせて六二あります。

文部省が専科大学につき現在種々検討されておりますが、短期大学

側のきつい反対があるのは事実であります。水面下で反対運動が続

けられております。

昭和六四年に第二次ベビーブームにより増大した中学生三年生がピタクになつた以後は次第に減ることになりますので、高校ならびに高専志望者数が低下することになりますので、この点を考慮して短期大学の反対があつたように思われます。

しかし、この反対運動もやや下火になりつつある節もありますが逆に専科大学という名前は短期大

学側が採るかも知れません。

女子学生は現在三三名在学しております。N科が一二名、E科が

一名、M科二〇名おりまして、女

現に東京では体育系の短期大学が専科大学構想を打ち出している

ようであります。

専科大学となつた場合はどうい

う校名になるかと、いう問題であります。地名だけを冠せて〇〇専

科大学といふようになるかもわから

りません。工業高専の場合は〇〇

工業専科大学となることも考へら

れます。が、本校のように商船と工

業の両方を持つ場合は、〇〇商船

・工業専科大学といふ変な名前に

なるのであります。一般の大学

でも〇〇大学と地名だけをつけて

いる場合が多いのでそのようにな

るのではないかと考えられます。

一方運輸省との関係であります

が、海技免状についてあまりしば

り過ぎないようにお願いに上つた

わけであります。増田船員部長

との話し合いでは、二〇〇名とい

う定員についても、また海技免状

についても大筋において承認を得

たように思われます。

なお今年の一〇月からE科の工

場実習がなくなりまして、航海訓

練所の練習船で実習することにな

ります。

現在の本校の状況でございます

が電子機械工学科の建物が新築さ

れました。これは一、七五〇m²で

ございまして、中味はまだ整備さ

れておりませんで建物だけ出来た

というところであります。

年代別にいわゆる太平洋戦争ま

で、戦後から商船高校まで、さら

めの日本人船員の職場確保論は

正論であつても、理在の日本経済

の在り方すなわち利益有先の考

えからでは当然受け入れられないで

あります。

学科改組については、戦前派で

は、当時の定員がNEとも二〇名

以下という少数であったところか

ら、定員が減つても問題はないで

はないかという考え方が強く出で

いるようです。皆さんにお尋ねし

ましたのは、商船学科がNE両コ

ースで四〇名、他の工業系の学科

が二学科で定員八〇名と、従来の

主流であつたNE分野が学年定員

の三分の一という事態に陥ること

ですのによろしく御了承下さい。

以上かいづまんで本校の直面して

いる問題点を中心にお話し申し

上げましたが、御質問がございません

したら、本日ここに教務主事と事務部長が出席されておりますのでお答えすると思います。どうもあ

りがとうございました。

（一同拍手）

「事務局において録音テープから判読しました。」

（問）

アンケート結果

昭和62年6月5日現在

卒業年度	T-S-19/12			S-22~S-44			高専			計	
	N	E	計	N	E	計	N	E	計		
改組について	どちらでも%	90 47	106 62	196 55	186 65	170 63	356 50	96 58	163 55	259 59	811
	反対%	52 28	32 19	84 24	39 14	45 17	84 15	50 26	72 26	122 26	290 21
鳥羽商船	無記入%	43 23	32 19	75 21	60 21	56 21	116 24	46 16	44 19	90 19	281 20
	合計	185	170	355	285	271	556	192	279	471	1382
賛成%	130 70	113 66	243 68	188 66	190 70	378 68	135 70	207 74	342 73	963 70	
	どちらでも%	25 14	30 18	55 15	46 16	40 15	86 15	20 10	39 14	59 13	200 14
無記入%	30 16	27 16	57 16	51 18	41 15	92 17	37 19	33 12	70 15	219 16	
	合計	185	170	355	285	271	556	192	279	471	1382

総会案内出状数 2800通
返送数 1382通

要は今後縮少された商船学科の学生を如何に鍛え上げ質の高い船舶職員に育てるかが大きな問題である」という貴重な御意見も頂戴しています。

一方校名変更については、現在の「鳥羽商船」というのを残すという考え方が圧倒的に多かつたわけですが、具体的には「鳥羽商船・工業・」というように明示された方もかなりありましたことを報告します。

なかには「鳥羽商船」の名称こそ校歴そのものであり、その名称がなくなるならば、一〇余年続いた本校が削減することを意味すると思う。政治家であれ、マスコミであろうがあらゆる使える手段を用いて断固として校名存続の努力を払うべきである。しかし乍ら現在の同窓会執行部に果してどれだけの熱意があるかははなはだ疑問に思われる。

過去にも執行部には問題提示力がなく、学校当局となれあいで総会が進められたことに失望したことと思い出しが、現執行部はそのときと殆んど同じ顔ぶれであるところから、本気でこの問題に取り組んでいるとは信じられない。いまでにも学校側に言うべきことははつきり言つて、一本筋の通った同窓会の運営をしてきたのならば別であるが、いまごろこの問題であわてて討議しても遅きに失している。

校名存続は同窓会として最重要

課題であり、断固たる態度で望んでもらいたい。

本件がうまく行かなかつた際は現執行部の総退陣は必然的である

といった厳しい文書による意見もあつたことを報告します。

一方「札幌農学校」が「北海道大学」になつてはいるではないかと

いう会員の意見もありました。共通していえることは、学校といふのは自先きの社会状況で定員を左右するのではなく、ナショナル・セキュリティとして考えるべきであるという意見が強く反映されていました。

また「商船大学、水産大学、水産高校専攻科さらには東海大学のよみであろうがあらゆる使える手段を用いて断固として校名存続の努力を払うべきである。しかし乍ら高専のみがなぜ先取り的に定員削減に走るのか」という意見もかなりありました。

なお、特に意見を拝聴したい海上勤務者の方は乗船中のため御家族から「乗船中でアンケートに答えられない」という返事が多かつたことから、機会を見てもう一度このような調査をやりたいと思います。

最後にお願いしたいことは、いまからでも結構ですから総会案内の返送です。返送されない方は新規名簿は従来どおりの勤務先としますので御了解下さい。なお校名変更問題は、本来その学校を卒業した者が最も愛着かつ関心をもつているわけであり、その声を充

分反映しなければ、あとで大きなシコリを残すことになりかねない。で慎重な配慮が必要と思われます。

「質 疑 応 答

問 周藤計兄 (T 10 N)
活発な質疑応答がありましたが要点についてのみ報告いたします。

これだけ問題が大きくなると相当運動しなければなりません。何としても資金を集めの必要があります。

私が商船学校に入ったときは大変な景気でしたが卒業するときには極端な不景気に陥っていました。私が心配しますことはこんな時代に学生が明るく勉強せよといつてもそれは無理というものです。

私は国際評論を書いておりますが、世界的な視野に立つて解決しなければならない政治的な問題が山積しております。

荷物は沢山あっても、いろいろな制約のため日本船が運べないという不可解な点があるわけです。

役人の発想ではとかくこうなつてこうなつてこうなるというようないふことをいいますがそうなるためには殆んどないのです。

問 上村賢治 (S 19 / 12 E)
志望者が激減しているというお話しですが、現在入学している学生の質はどの程度か教えて下さい。

会員名簿は従来どおりの勤務先としますので御了解下さい。なお校

通信大臣にくらいついたことがありますが、こうした根生のある学生を育てなければなりません。今後は海運の面でも世界中を敵としてがんばらなければなりません。

答 和田会長
只今は大先輩から大変厳しい御意見を賜りましたが、ここでどうしても考えなければならない問題があります。それは今までの海運界はどんなに不況でもサイクルがありましたので、しばらくすれば回復するというメドが立ちました。私もそういう経験をもつてお

りますが、今度の問題は国際的な構造的な問題でありまして、また

私が商船学校に入つたときは大変な景気でしたのが卒業するときには極端な不景気に陥っていました。

私が心配しますことはこんな時代に学生が明るく勉強せよといつてもそれは無理というものです。

私は国際評論を書いておりますが、世界的な視野に立つて解決しなければならない政治的な問題が山積しております。

荷物は沢山あっても、いろいろな制約のため日本船が運べないと

いう不可解な点があるわけです。

役人の発想ではとかくこうなつてこうなつてこうなるというようないふことをいいますがそうなるためには殆んどないのです。

それと現在の接点をどのようにするかという点で現場からの新しい対策を関係者が御苦労なさつて

いるわけであります。

問 松山清二 (S 53 E)
学科改組が一学科終つてゐるわ

けですが何故「電子機械工学科」でなければならなかつたのか。

「海洋システム工学」というよ

う海に関係ある学科にならなかつたのか。魅力ある学科、海に関係

としましては種々の方法を講じてなるべく留年させないようにして卒業させております。

最近の傾向としましては、三重県の場合でも普通高校へ進むのが一般的になつておりますので、そちらと併願した志願者は、普通高校が合格すると辞退するケースが増えております。

そこでP.R.をきちんと行いまして、本校の有為性というものを打ち出す努力をしております。新入生の約六〇パーセントが県内から

入学しておりますが、N科やE科は県外からもかなり入学しておりますがM科は殆んどが県内から入学しております。

皆様方の当時より、進学したいのは進んでくるわけでありますので、その中で生き抜いて行く将来を展望した対策の一つとして商船高専の学制改革が生れようとしているのであります。

在学生に対する対応としては、混乗船においても充分対応できるような力を

つける努力を講じたいと考えています。

学校が沢山ありますので、思うようによい学生を多数集めることは困難になりましたが、私共はあらゆる努力を講じたいと考えています。

学校が沢山ありますので、思うようによい学生を多数集めることは困難になりましたが、私共はあら

ゆる努力を講じたいと考えています。

在学生に対する対応としては、混乗船においても充分対応できるような力を

つける努力を講じたいと考えています。

在学生に対する対応としては、混乗船においても充分対応できるような力を

つける努力を講じたいと考えています。

在学生に対する対応としては、混乗船においても充分対応できるような力を

つける努力を講じたいと考えています。

在学生に対する対応としては、混乗船においても充分対応できるような力を

つける努力を講じたいと考えています。

在学生に対する対応としては、混乗船においても充分対応できるような力を

つける努力を講じたいと考えています。

が、海運界が不況であれば、海洋レジャーというような今後発展がありませんか。国もマリーナ計画には積極的ですから、そのような方向に就職先を向けることも必要かと思われます。

次に就職関係で気になりますのは、海運関係の会社を除いて殆んど名も無いような企業に就職している例が多いと思われますが、就職についてはもう少し愛情を以て行つて戴きたいと思います。

同窓生のいる会社からの求人がどうも学校側で差別されているような感じを受けるのが気がかりです。

今度の学科改組の説明をお伺いしていると、現在在職している職員の立場を考慮して対応されている感じ強く、本来学校の目的である学生の将来という点がばかされようか。

海洋システム工学とか海洋土木工学というような海洋に関連した学科には改組できないものでしょ

うかお伺いします。

答 矢島校長

御意見はごもつともと存じます。前回の改組は特色があるということで特にメカを生かすということで電子機械工学としたわけであります。

今回も充分考えまして、海洋系として「海洋土木」、「海洋技術工学」、「海洋資源工学」、「海

洋情報工学」、港湾関係では「港湾技術工学」等を検討したわけであります。が、結局現在考えておりまます情報系の学科と比較して適當かどうかという点で断念せざるを得なかつたわけであります。

現在考へている学科に改組することが最善とはいへ切れないとしてもそれに近い解釈と思つております。船の特色を活かせといわれますと、本校は目的校なむち船に乗るということから考えますとその養成目的に沿つていないのであります。

細かい数字をあげれば五〇パーセント以上は船に進んでいます。会社からの求人数をデータとして示されればどうしようもないのが現状です。

次に就職指導の面での御意見がありました。が、私としましては学生に公平に就職先を指導するよう担当者に申しておりますので、もし不都合があるようでしたら、急に対応したいと思つております。今後も御意見を頂戴したいと考えております。

答 矢島校長

御意見はごもつともと存じます。

前回の改組は特色があるということで特にメカを生かすということで電子機械工学としたわけであります。

今回も充分考えまして、海洋系として「海洋土木」、「海洋技術工学」、「海洋資源工学」、「海



慰靈祭物故者合祀祭

慰靈祭の式次第

一 開式の辞	一 修祓の儀	一 斎主一拝	一 献饌の儀	一 祝詞奏上	一 斎主玉串奏典	一 参列者玉串奏典	一 同窓会長	一 学生代表	一 遺族	一 撤饌の儀	一 斎主一拝	一 同窓会長挨拶	一 閉式の辞
来賓													

靈祭及び物故者の合祀祭を計画いたしましたが、都合で一年延期された関係で本年実施という運びになりました。

遺族、来賓、多数の会員、学生代表が参列して、鳥羽金比羅大社の宮司により慰靈祭、合祀祭とも厳粛に挙行されました。六月始めというのに真夏なみの気温上昇となり、参列者一同暑さにやや悩まされた形となりましたが、校祖近藤先生に改めて感謝すると同時に、母校の一角において眠る物故者一同が母校のより発展を見守つて頂けるよう祈願した次第です。今回の合祀者は左記のとおりです。

なお合祀者の名簿は左記のとおりです。なお御臨席の遺族及び御臨席賜り得なかつた遺族より計三十五、〇〇〇円の御供料を戴きました。

五年から、校祖近藤真琴先生を始めとする慰靈祭ならびに物故者の合祀祭が挙行されました。

合祀者名簿

航海科

物故者名 (卒業年度)

奥平鱗太郎 (T 4)、高山弥三郎 (T 4)、佐藤信次 (T 4)、浅野半助 (T 6)、小河一市 (T 8)

小西茂雄 (T 8)、小池忠平 (T

機関科

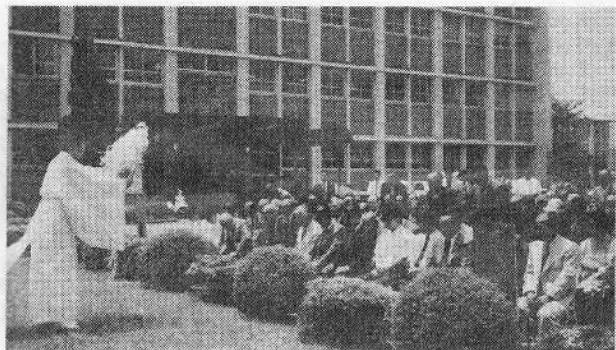
物故者名 (卒業年度)

白井喜和次 (T 4)、田端直次郎 (T 4)、棚木善三郎 (T 4)、上山貞雄 (T 5)、小貫昇 (T

英一 (T 9)、田中清四郎 (T 9)

8)、山上精一 (T 8)、山下定吉 (T 9)、前山寅三郎 (T 10)、猪飼泰一 (T 11)、丹羽三郎 (T 11)、山口伊三郎 (T 11)、居鳥宗一郎 (T 12)、前葉弘文 (T 12)、吉村武男 (T 12)、上田元三郎 (T 13)、松葉義男 (T 13)、鎌田藤吉 (T 14)、堀出政三 (T 15)、下村礼三 (S 2)、小川文吉 (S 4)、熊谷敏彦 (S 5)、浜口光男 (S 6)、川村信夫 (S 7)、杉浦俊三 (S 7)、上村一雄 (S 8)、小島明正 (S 8)、鶴田良衛 (S 8)、吉原保行 (S 9)、中川健三 (S 11)、時岡信一 (S 12)、○梅山三郎 (S 13)、吉本昂 (S 14)、押尾定夫 (S 16)、畠下修 (S 15)、伊藤貢 (S 17)、杉本作栄 (S 18)、西岡久三 (S 18)、鈴木英一 (S 18)、夏目孝雄 (S 18)、竹内幾生 (S 18)、石川良人 (S 19 / 12)、加藤正義 (S 19 / 12)、高木隆栄 (S 19 / 12)、山口篤 (S 19 / 12)、森田登 (S 19 / 12)、大橋久治郎 (S 21)、杉達也 (S 21)、中山繁 (S 21)、中西昭 (S 24)、青木金次郎 (S 30)、堀田力也 (S 30)、住吉興三輪浩義 (S 35)、中山昭蔵 (S 44)、(S 56)、五六名

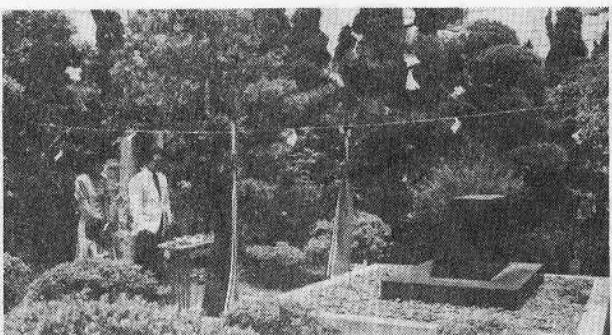
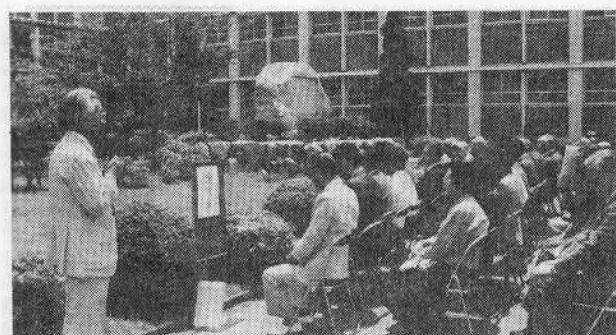
加藤陸郎 (T 10)、千葉孝三 (T 10)、岡田正雄 (T 11)、西川正夫 (T 11)、津田金松 (T 11)、○谷口英雄 (T 11)、○中村正 (T 11)、金久要藏 (T 13)、松本有三 (T 14)、○山林規矩藏 (T 14 ○)、酒井道雄 (S 3)、秋尾幹敬 (S 3)、星谷善左衛門 (S 3)、杉田悌二郎 (S 4)、長尾正行 (S 6)、柳川元一 (S 6)、○西井一郎 (S 8)、中野萬藏 (S 8)、橋本芳松 (S 8)、藤雄良時 (S 8)、小坂仁 (S 9)、加藤林次郎 (S 9)、浅沼実 (S 11)、出口由平 (S 14)、庄村善隆 (S 15)、山本徳男 (S 18)、中西定 (S 18)、鈴木猪佐男 (S 19)、中村春雄 (S 19)、藤崎金太郎 (S 19 / 12)、田岡一豊 (S 21)、井上永治 (S 21)、管恵治 (S 25)、亀山昌彦 (S 27)、下平和弘 (S 28)、毎本計 (S 29)、山中勉 (S 33)、山県伏督 (S 35)、熊崎克己 (S 49)、杉原修 (S 50)、四八名 教職員 計一〇九名 遺族臨席者名簿 (カッコ内は物故者名) 杉浦栄子 (S 7 N 杉浦専三) 梅山満子 (S 13 N 梅山三郎) 谷口孝一郎 (T 11 E 谷口英雄)



斎主による参列者お祓い



慰靈碑に斎主一拝



遺族による玉串奉典

西井秀夫 (S 8 E 西井一郎)
山本和史 (S 18 E 山本徳男)

理事會

総会に先立つて昭和六十二年六月七日午前九時三〇分から、母校百周年記念資料館二階大会議室において開催され、総会提出の議案を中心討議されました。

最初に慰靈祭・合祀祭の開催についての実施要領の説明や開催についての母校側の協力状況等について説明がありました。次いで総会提出議案の審議が行われ、原案どうり可決されました。最後に会費の値上げについて西川副会長から提案があり、年会費終身会費の見なおしが討議されました。

会費の値上げが承認され、中断中の役員に対する旅費の支給が継続されることになりました。今回は母校の学科改組、校名変更等重要議題が提案された関係もあって、西島好夫常任顧問、堤好造相談役を始め、理事二七名、会計監査二名の出席があり、委任状は一五通提出されました。

な出席者名は総会出席者名と二重になるところから省略しました。

懇親会

総会終了後十五時過ぎよりホテルタマヨシにおいて立食形式の懇親会が開催され、総会出席者の大部分の会員の参加を得て盛会となりました。

西川副会長が都合で帰京を早められた和田会長に替つて挨拶されたのち、安藤智彦先輩の乾杯の音頭により宴が開始されました。

安藤先輩は「私は横須賀海兵団で実習中に、視力が悪いことから将来船員としての勤務は不可能ではないかといわれたことに奮闘し、一念發揮猛勉強の結果高文試験



安藤先輩による乾杯の音頭

(現在の司法試験)に合格、司法機関を経て弁護士になつた。何事



盛大な懇親会風景



も努力すれば必ずそれだけの結果が伴うことを念頭に置くように、若い会員にとつては大変有益な挨拶を賜りました。T10という、大先輩からS58という最年少の会員が一同に会して和氣あいあいの懇親会は校祖近藤真琴先生の慰靈

・物故者の合祀という行事のあつたこともほか、総会の議題に母校の学科改組という、母校にとってはその存在が左右される重大問題があつたことが、例年以上の幅広い年代に亘る会員の出席（総会出席者の名簿で九印の方）という結果に繋つたものと思われます。



函館駅の鉄道展会場にて

函館支部会員の再就職についての最終決定を尋ねに寄られたわけです。

大筋において決定いたしました。三月三〇日に本部より札幌に来られた本部の落合理事が来函され、支部の幹部会員が函館駅に迎えに上りました。

青函連絡船もJR北海道に移管されました。昭和六三年三月末を以てその歴史が閉じられますようとしています。

函館支部

夕食を御一緒にし、支部会員の将来等について懇談し、今後の本部との連絡についても対応方法等を検討しました。

函館駅では鉄道展が開催されており、落合理事と共に、佐藤茂樹元支部長による見事な連絡船のカラー写真の数々を楽しみました。

国鉄最後の日の連絡船で帰られたのは三月三一日午前〇時二〇分過ぎでした。

京浜支部

☆支部総会のお知らせ

六二年度支部総会は、昨年同様本年十一月二十日(金)か二十七日(金)夜に、東京ステーションホテルにおいて開催する予定です。会費は六千円、出席されれば何か情報が得られるのではないかでしょうか。

通知もれも結構あると思いますので、出席ご希望の方は日が近づいてきましたら在京の理事に連絡してみて下さい。

☆全船協から

全船協という団体は全国にある五つの商船高専の連合同窓会的な性格の社団法人です、過去、現在ともに練習船の建造や商船学校の

支部便り

昇格等、主として学校の問題を中心官庁に働きかけ、沢山の実績を残しています。現在、学校も非常に難しい時期にあり、和田会長も幸い鳥羽・四日市・名古屋方面には同窓生が大勢住んでおられます。鳥羽に東海支部でも作って、在住者に会員に加入していただきたい

に奮闘されています。

幸い鳥羽・四日市・名古屋方面には同窓生が大勢住んでおられます。鳥羽に東海支部でも作って、在住者に会員に加入していただきたい

に協力してやることに繙がるわけです。

☆竹内宗助船長の作品入選

このたび日本海軍広報協会での作品「最終航海」が一位入選となりましたのでお知らせします。

なお、入選三篇・準入選三篇・佳作八篇は「航海記」として一冊の本にまとめられ、七月上旬より全国の書店で販売されるほか、日本海軍広報協会からも直接領布されます。

B6判・約三百頁・定価千八百円、送料二百五十円

同窓生の入選作がのつた本ですから多数の方が購読されるよう希望いたします。（浅野記）

日本海事広報協会
〒104 東京都中央区新川一ー三一
電話 03-552-5031

名古屋支部

1、幹部会の開催

昭和六十二年二月十日幹部会を開催しました。本部より落合理事

(T17) 上京の帰途臨席され、学科改組の問題を拝聴しました。今後の母校のあり方及び学校名の内(商船)という文字を存続させることに全員が賛同し、関係先に要望する様落合理事に要請しました。

次に名鳥会創立二十五周年記念事業を推進するヤングの会は親睦と交流を密にするための当初案を実施する企画が承認され、財政基盤は有志会員よりの御厚意による寄付金を一部充当する案が提議され、幹部会で了承されました。

(六月二〇日の若鳥会出席者) 山崎修 (S16N) 山本太郎 (S19N) 裏山惣一 (S19N) 村井憲次 (S19E) 清水芳美 (S21) 加藤喜作 (S22N) 春口正一 (S30E) 浜畠茂紀 (S51E) 浅井英輔 (S52N) 加塚伸吾 (S52E) 森村宏志 (S55N) 森田浩敏 (S57N) 計十二名

文をされた九十五名の会員に発送されました。

昭和六十二年四月一日現在で、会員数五百三十二名です(内訳名古屋市一六六名愛知県内一九六名岐阜県五八名、静岡県大半八名)

三重県の一部三四名。

本名簿作成には、山本太郎 (S19N) 村井憲一 (S19E) 小林正司 (S43N) 加塚伸吾 (S52E) 諸氏のご協力を仰ぎました。厚く御礼申し上げます。

編集委員長は 山崎修 (S16N) です。

なお協賛の広告についてお願いしましたところ、山本太郎 (S17N) 井村安雄 (S17E) 加藤喜作 (S22N) 中村研一 (S28E) 尾鷲綱三 (S33E) 菅沼延之 (S48N) 伊良湖三河湾水

害など幾多の苦難を乗り越え、世界有数の国際貿易港に成長しました。近年は、親しまれる港

づくりに取り組み、ボートビル

(五二米の処に展望台あり)、南極観測船ふじなど魅力ある施設が整備され、港を訪れる多く

の人々の憩いの場となっています。新たにポートハウス(無料

休憩所)が六一年四月二日オ

ープン(収容人員四〇〇名)さ

れ、さらに海洋水族館が名古屋

港ガーデン埠頭西側に(一二、〇〇〇m²一五、〇〇〇m²)建

設が決定され、六六年後半に完

工予定となっています。

ふれあいと活気のある名古屋港へと一層の期待が高まるなか、

協賛を得ましたので両店のせいぜい御利用をお願いします。

3、次回の役員会・総会開催日について

2、名古屋支部(名鳥会) 在住者名簿

二十五周年記念事業として年始より進められていました名鳥会の名簿が完成し四月二十五日既に注

次回の役員会と総会開催日についてお知らせします。役員会は六十二年十月一日(金)総会は十一月十四日木に開催いたします。後刻会場

時間等の詳細は御連絡しますが、総会は出来るだけ多数の参加を熱望しています。

名古屋港を求めて、盛りたくさんの催しが計画されていますのでご期待下さい。

4、名古屋港開港80周年 記念について

(1) 明治四十年十一月十日開港した名古屋港は、今年八〇周年を迎えるます。この間、戦災や自然災害など幾多の苦難を乗り越え、世界有数の国際貿易港に成長しました。

（2）練習帆船日本丸(二、五七〇総屯)が昭和六二年四月一〇日

一〇時三〇分名古屋港に入港しました。開港八〇周年を記念して一日(土)午前と午後、二二日(日曜日)午前一般公開され、五、〇〇〇名ずつ三回計一五、

〇〇〇名が訪船しました。一二

日午前中の一般公開に続く午後

一時三〇分よりのセールドリル

では強風のため、ロイヤル張帆出来ず半帆作業に終りましたが、これを見守る約二〇、〇〇〇人

の大観衆は夢とロマンと、スリルを満喫しました。

○五名でした。

小島海洋会名古屋支部長の歓迎挨拶に始まり、日本丸船長の歓迎

女航海記録と現在(四月一日大

学生乗船)練習生の訓練状況等の報告あり、同窓会名古屋支部

山崎支部長の力強い乾杯に始ま

った。

二三日午後三時より、海洋会メ

ンバーと支部理事三名、(山崎修 (S16N) 山本太郎 (S19N) 加藤喜作 (S22N))が、

新造の計画、造船所の起工式、表敬訪問しました。学生食堂で、

から三日まで、ガーデン埠頭を中心に開催されます。八〇年の歴史をもとに、さらに飛躍する、

名古屋港を求めて、盛りたくさんの催しが計画されていますのでご期待下さい。

練習帆船日本丸(二、五七〇総屯)が昭和六二年四月一〇日

一〇時三〇分名古屋港に入港しました。開港八〇周年を記念して一日(土)午前と午後、二二日(日曜日)午前一般公開され、五、〇〇〇名ずつ三回計一五、

〇〇〇名が訪船しました。一二

日午前中の一般公開に続く午後

一時三〇分よりのセールドリル

では強風のため、ロイヤル張帆出来ず半帆作業に終りましたが、これを見守る約二〇、〇〇〇人

の大観衆は夢とロマンと、スリルを満喫しました。

○五名でした。

小島海洋会名古屋支部長の歓迎挨拶に始まり、日本丸船長の歓

女航海記録と現在(四月一日大

学生乗船)練習生の訓練状況等の報告あり、同窓会名古屋支部

山崎支部長の力強い乾杯に始ま

った。

二三日午後三時より、海洋会メ

ンバーと支部理事三名、(山崎修 (S16N) 山本太郎 (S19N) 加藤喜作 (S22N))が、

新造の計画、造船所の起工式、表敬訪問しました。学生食堂で、

から三日まで、ガーデン埠頭を

中心に開催されます。八〇年の歴史をもとに、さらに飛躍する、

名古屋港を求めて、盛りたくさんの催しが計画されていますのでご期待下さい。

練習帆船日本丸(二、五七〇総屯)が昭和六二年四月一〇日

一〇時三〇分名古屋港に入港しました。開港八〇周年を記念して一日(土)午前と午後、二二日(日曜日)午前一般公開され、五、〇〇〇名ずつ三回計一五、

〇〇〇名が訪船しました。一二

日午前中の一般公開に続く午後

一時三〇分よりのセールドリル

セイルドリルを見守る大観衆



歓迎会における船長挨拶

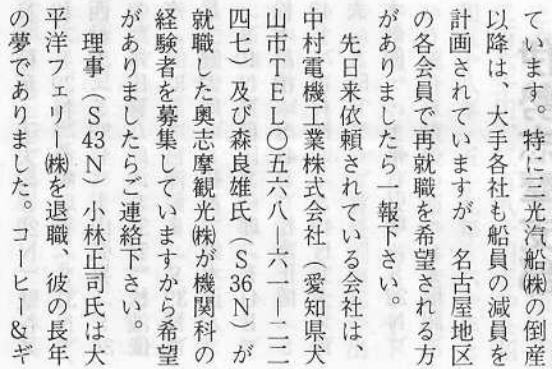
り、なごやかな懇談が行われました。支部からの出席者は、山崎修（S 16N）、渥美豊（S 17N）、山本太郎（S 17N）裏山惣一（S 17N）、間宮金一（S 17N）、村井憲次（S 17E）清水芳美（S 22N）、加藤喜作（S 22N）、赤尾陽彦（S 28N）徳島博（S 30N）、野田則之（S 34N）、磯貝光洋（S 41N）光崎泰夫旧姓小野寺（S 51N）、合計一四名でした。



S 16～S 44の会員



S 51～S 52の会員



S 53～S 57の会員

今回のヤング会は、S 52 E 加塚伸吾氏（名古屋港管理組合）が企画された。S 40年以降卒業生及び役員を加え二五六名に案内を送り、当初の出席予定者二七名（役員を含む）の返信がありました。また今回は止むなく欠席された同窓の方も、今後出席し、ヤング会の力を、結束強化を計るようとの要望がありました。出席者は別表のとおりです。

加塚氏の司会で会長（支部長）山崎氏の挨拶があり、名鳥会は今後ともヤングの会を積極的にバックアップするなどの方針が話

され、活発な会が進行された。若鳥会の積極的な動き、すなわち意気込みを充分、目の前にして、今後に力強いものが感ぜられた。引き続き山本太郎氏のヤング会

会、活動が行われました。引き続き山本太郎氏のヤング会

の発展と同窓諸氏の健勝を祈り、乾杯の音頭がとられ、立食パーティが始まりました。先輩、後輩といわば学校時代の色々の思い出がつきず、新校歌に続き年長者の校歌、寮歌等が合唱されました。最後に若鳥会の年輩者S 42 E 竹川俊幸氏（大正興業株式会社取締役社長）の力強い万才三唱を行いました。

次回六三年度は四月第三土曜日とする計画です。

名鳥会ヤングの会（若鳥会）出席者名簿
佐藤久米男（S 49E）、糀野哲治（S 58N）、山崎修（S 16N）、山本太郎（S 19N）、中村研一（S 28E）、田中忠次（S 33N）、船橋晴雄（S 19）、村井憲次（S 19E）、竹川俊幸（S 42E）、河本

昭和六二年六月二〇日一六時より、恒例の支部総会を四日市駅前の農協会館で開催しました。本部から斎藤理事、母校から矢島校長が出席されました。

支部総会は、本部総会の模様を支部会員に伝える目的から本部総会直後に開催することになつていています。特に三光汽船㈱の倒産以来は、大手各社も船員の減員を計画されていますが、名古屋地区の各会員で再就職を希望される方がありますたら一報下さい。

先日来依頼されている会社は、

中村電機工業株式会社（愛知県犬山市TEL〇五六八一六一一二二四七）及び森良雄氏（S 36N）が就職した奥志摩観光㈱が機関科の経験者を募集していますから希望がありましたらご連絡下さい。

理事（S 43N）小林正司氏は大洋

洋エリー㈱を退職、彼の長年

の夢がありました。コーヒーライフ

5 第三回若鳥会

（名鳥会ヤング会）
昭和六十二年六月二〇日
一八時～二〇時

今回のヤング会は、S 52 E 加塚伸吾氏（名古屋港管理組合）が企画された。S 40年以降卒業生及び役員を加え二五六名に案内を送り、当初の出席予定者二七名（役員を含む）の返信がありました。また今回は止むなく欠席された同窓の方も、今後出席し、ヤング会の力を、結束強化を計るようとの要望がありました。出席者は別表のとおりです。



S 51～S 52の会員

名鳥会ヤングの会（若鳥会）出席者名簿
佐藤久米男（S 49E）、糀野哲治（S 58N）、山崎修（S 16N）、山本太郎（S 19N）、中村研一（S 28E）、田中忠次（S 33N）、船橋晴雄（S 19）、村井憲次（S 19E）、竹川俊幸（S 42E）、河本

木富雄（S 52E）、○夏目雅史（S 52E）、岡松保樹（S 52N）○山本慎也（S 52E）、荻野武彦（S 53N）、○熊谷一幸（S 53N）○伊藤彰英（S 53E）、○河合純二（S 53E）、○西浜卓巳（S 54N）、○本林昌樹（S 56E）、○岡松宏（S 57N）、森田浩敏（S 57N）合計三〇名

（印 初参加）昭和六二年六月二〇日一六時より、恒例の支部総会を四日市駅前の農協会館で開催しました。本部から斎藤理事、母校から矢島校長が出席されました。

支部総会は、本部総会の模様を支部会員に伝える目的から本部総会直後に開催することになつていています。特に三光汽船㈱の倒産以来は、大手各社も船員の減員を計画されていますが、名古屋地区の各会員で再就職を希望される方がありますたら一報下さい。

先日来依頼されている会社は、

中村電機工業株式会社（愛知県犬

山市TEL〇五六八一六一一二二四七）及び森良雄氏（S 36N）が就職した奥志摩観光㈱が機関科の

経験者を募集していますから希望

がありました。出席者は右のとおりです。

理事（S 43N）小林正司氏は大洋

洋エリー㈱を退職、彼の長年

の夢がありました。コーヒーライフ

ヤラリ「路」良」を六二年六月

三日開店（自宅内）されました。

地下鉄八事駅下車東へ約一杆の御幸山ですからご利用の程お願い

します。（山崎記）

（TEL〇五二一八三二一三二五五 自宅八三二一四六五九）

（山崎記）

友美（S 44N）、田村卓（S 44N）

○小笠原典城（S 51N）、○三輪

康弘（S 51N）、○石原正生（S

51E）、浜畠茂紀（S 51E）、浅

井英輔（S 52N）、石井武（S 52

N）、加塚伸吾（S 52E）、○鈴

木富雄（S 52E）、○夏目雅史

（S 52E）、岡松保樹（S 52N）

○山本慎也（S 52E）、荻野武彦

（S 53N）、○熊谷一幸（S 53N）

○伊藤彰英（S 53E）、○河合純

二（S 53E）、○西浜卓巳（S 54

N）、○本林昌樹（S 56E）、○岡

松宏（S 57N）、森田浩敏（S 57

N）合計三〇名

（印 初参加）昭和六二年六月二〇日一六時より、恒例の支部総会を四日市駅前の農協会館で開催しました。本部から斎藤理事、母校から矢

島校長が出席されました。

支部総会は、本部総会の模様を

支部会員に伝える目的から本部

総会直後に開催することになつて

いています。特に三光汽船㈱の倒産

以来は、大手各社も船員の減員を

計画されていますが、名古屋地区

の各会員で再就職を希望される方

がありましたたら一報下さい。

先日来依頼されている会社は、

中村電機工業株式会社（愛知県犬

山市TEL〇五六八一六一一二二四七）及び森良雄氏（S 36N）が就職した奥志摩観光㈱が機関科の

経験者を募集していますから希望

がありました。出席者は右のとおり

です。

理事（S 43N）小林正司氏は大洋

洋エリー㈱を退職、彼の長年

の夢がありました。コーヒーライフ

ヤラリ「路」良」を六二年六月

三日開店（自宅内）されました。

地下鉄八事駅下車東へ約一杆の御幸山ですからご利用の程お願い

します。（山崎記）

（TEL〇五二一八三二一三二五五 自宅八三二一四六五九）

（山崎記）

友美（S 44N）、田村卓（S 44N）

○小笠原典城（S 51N）、○三輪

康弘（S 51N）、○石原正生（S

51E）、浜畠茂紀（S 51E）、浅

井英輔（S 52N）、石井武（S 52

N）、加塚伸吾（S 52E）、○鈴

木富雄（S 52E）、○夏目雅史

（S 52E）、岡松保樹（S 52N）

○山本慎也（S 52E）、荻野武彦

（S 53N）、○熊谷一幸（S 53N）

○伊藤彰英（S 53E）、○河合純

二（S 53E）、○西浜卓巳（S 54

N）、○本林昌樹（S 56E）、○岡

松宏（S 57N）、森田浩敏（S 57

N）合計三〇名

（印 初参加）昭和六二年六月二〇日一六時より、恒例の支部総会を四日市駅前の農協会館で開催しました。本部から斎藤理事、母校から矢

島校長が出席されました。

支部総会は、本部総会の模様を

支部会員に伝える目的から本部

総会直後に開催することになつて

いています。特に三光汽船㈱の倒産

以来は、大手各社も船員の減員を

計画されていますが、名古屋地区

の各会員で再就職を希望される方

がありましたたら一報下さい。

先日来依頼されている会社は、

中村電機工業株式会社（愛知県犬

山市TEL〇五六八一六一一二二四七）及び森良雄氏（S 36N）が就職した奥志摩観光㈱が機関科の

経験者を募集していますから希望

がありました。出席者は右のとおり

です。

理事（S 43N）小林正司氏は大洋

洋エリー㈱を退職、彼の長年

の夢がありました。コーヒーライフ

ヤラリ「路」良」を六二年六月

三日開店（自宅内）されました。

地下鉄八事駅下車東へ約一杆の御幸山ですからご利用の程お願い

します。（山崎記）

（TEL〇五二一八三二一三二五五 自宅八三二一四六五九）

（山崎記）

友美（S 44N）、田村卓（S 44N）

○小笠原典城（S 51N）、○三輪

康弘（S 51N）、○石原正生（S

51E）、浜畠茂紀（S 51E）、浅

井英輔（S 52N）、石井武（S 52

N）、加塚伸吾（S 52E）、○鈴

木富雄（S 52E）、○夏目雅史

（S 52E）、岡松保樹（S 52N）

○山本慎也（S 52E）、荻野武彦

（S 53N）、○熊谷一幸（S 53N）

○伊藤彰英（S 53E）、○河合純

二（S 53E）、○西浜卓巳（S 54

N）、○本林昌樹（S 56E）、○岡

松宏（S 57N）、森田浩敏（S 57

N）合計三〇名

（印 初参加）昭和六二年六月二〇日一六時より、恒例の支部総会を四日市駅前の農協会館で開催しました。本部から斎藤理事、母校から矢

島校長が出席されました。

支部総会は、本部総会の模様を

支部会員に伝える目的から本部

総会直後に開催することになつて

いています。特に三光汽船㈱の倒産

以来は、大手各社も船員の減員を

計画されていますが、名古屋地区

の各会員で再就職を希望される方

がありましたたら一報下さい。

先日来依頼されている会社は、

中村電機工業株式会社（愛知県犬

山市TEL〇五六八一六一一二二四七）及び森良雄氏（S 36N）が就職した奥志摩観光㈱が機関科の

経験者を募集していますから希望

がありました。出席者は右のとおり

です。

理事（S 43N）小林正司氏は大洋

洋エリー㈱を退職、彼の長年

の夢がありました。コーヒーライフ

ヤラリ「路」良」を六二年六月

三日開店（自宅内）されました。

地下鉄八事駅下車東へ約一杆の御幸山ですからご利用の程お願いします。（山崎記）

（TEL〇五二一八三二一三二五五 自宅八三二一四六五九）

（山崎記）

友美（S 44N）、田村卓（S 44N）

○小笠原典城（S 51N）、○三輪

康弘（S 51N）、○石原正生（S

51E）、浜畠茂紀（S 51E）、浅

井英輔（S 52N）、石井武（S 52

N）、加塚伸吾（S 52E）、○鈴木富雄（S 52E）、○夏目雅史（S 52E）、岡松保樹（S 52N）○山本慎也（S 52E）、荻野武彦（S 53N）、○伊藤彰英（S 53E）、○河合純二（S 53E）、○西浜卓巳（S 54N）、○本林昌樹（S 56E）、○岡松宏（S 57N）、森田浩敏（S 57N）合計三〇名

（印 初参加）昭和六二年六月二〇日一六時より、恒例の支部総会を四日市駅前の農協会館で開催しました。本部から斎藤理事、母校から矢島校長が出席されました。

支部総会は、本部総会の模様を支部会員に伝える目的から本部総会直後に開催することになつていています。特に三光汽船㈱の倒産以来は、大手各社も船員の減員を計画されていますが、名古屋地区の各会員で再就職を希望される方

がありましたたら一報下さい。

先日来依頼されている会社は、中村電機工業株式会社（愛知県犬山市TEL〇五六八一六一一二二四七）及び森良雄氏（S 36N）が就職した奥志摩観光㈱が機関科の

経験者を募集していますから希望がありました。出席者は右のとおりです。

理事（S 43N）小林正司氏は大洋洋エリー㈱を退職、彼の長年の夢がありました。コーヒーライフヤラリ「路」良」を六二年六月三日開店（自宅内）されました。

地下鉄八事駅下車東へ約一杆の御幸山ですからご利用の程お願いします。（山崎記）

（TEL〇五二一八三二一三二五五 自宅八三二一四六五九）

（山崎記）

友美（S 44N）、田村卓（S 44N）

○小笠原典城（S 51N）、○三輪康弘（S 51N）、○石原正生（S 51E）、浜畠茂紀（S 51E）、浅井英輔（S 52N）、石井武（S 52N）、加塚伸吾（S 52E）、○鈴木富雄（S 52E）、○夏目雅史（S 52E）、岡松保樹（S 52N）○山本慎也（S 52E）、荻野武彦（S 53N）、○伊藤彰英（S 53E）、○河合純二（S 53E）、○西浜卓巳（S 54N）、○本林昌樹（S 56E）、○岡松宏（S 57N）、森田浩敏（S 57N）合計三〇名

（印 初参加）昭和六二年六月二〇日一六時より、恒例の支部総会を四日市駅前の農協会館で開催しました。本部から斎藤理事、母校から矢島校長が出席されました。

支部総会は、本部総会の模様を支部会員に伝える目的から本部総会直後に開催することになつていています。特に三光汽船㈱の倒産以来は、大手各社も船員の減員を計画されていますが、名古屋地区の各会員で再就

本部からは斎藤理事が出席され、母校の学科改組・校名変更の問題について、いきさつや最近の情勢等の説明、報告が行われましたが、支部総会出席者の意見は、歴史ある「鳥羽商船」の名称を残すということで一致しました。

去る一月二〇日に、支部幹事を
中心に幹事会を兼ねた新年会（出席者一七名）を開催した後、五月
二二日に大阪市南区千日前「鳥よ
し」で、本年度の大阪支部総会を開催しました。

本年度支部総会は、大阪支部で
は過去最高の三七名の出席があり
盛大な総会となりました。

大阪支部

神戸支部

(岡室記)

その後懇親会に入り、中華料理の旨さに舌鼓みを打ちながら自己紹介、新旧校歌合唱、そして若き青年人大又育夫（S55E）のリーダーによる万歳三唱で来年の再会を約し散会しました。

昭和六二年一月七日、伊勢志摩支部の総会を鳥羽の「ぶらじる丸」船内食堂で開催しました。

伊勢志摩支部

☆谷水鳥羽海上保安部長就任祝賀会

S 37 牧	孝明	S 37 石垣	三郎
S 7 平井	勇	S 12 広岡	隆一
S 13 安田太津造	勇	S 16 今高	光雄
S 16 山本	勇	S 17 竹岡	四郎
S 18 高梨	素直	S 18 北岡	万二
S 19 橋川	八郎	S 19 高野富美男	
S 19 上村	賢治	S 25 中条	正行
S 30 古川	昭一	S 33 岡村	幸治
S 35 伊藤	康彦	S 44 倉井	力
S 51 皇山	実	S 59 松永	直也
S 61 西井	育夫	(室記)	

小原 博	18 N	宮澤 錠多	39 N
長谷川俊治	19 N	橋本 啓	39 N
田中亀佐男	12 N	小椋 博	43 N
大久保徳夫	12 N	宮地 昭	48 N
井上 三一	21 N	阪下 正人	50 N
島田 昭三	21 N	岡室 孝美	52 N
古妻 秀夫	21 N	牛島 潔	52 N
向井 源一	21 E	板東 秀樹	53 E
坂本 實	23 N	山田 晃三	55 N
佐藤 定男	24 E	幸松 亨	55 N
黒田章三郎	27 N	野口 靖司	55 E
金澤 恒男	27 E	浦川 寿樹	55 E
斎藤 隆	27 E	馬場 勉	57 N
大江 納	32 N	生川 斎	57 E
奥野 明	34 E	山田 充寛	61 E
長谷川雅昭	36 N	(岡室記)	

日本汽船定年退職、田中真佐夫（S 25 N）
26 N）大阪商船三井船舶定年退職
大高伸一（S 41 N）静岡県に転居、
文（S 23 N）笠原昌治（S 30 N）
下川公一（S 34 N）岩崎敏寿（S
35 N）諸氏からの欠席に伴うメツ
セージ等が発表されました。
更に本部から落合理事の報告事項
として、学校の存亡を根底から謡
るがす様な専科大学制度の導入、
又それらに関するアンケートの募
集に対し報告されました。
又、田代金吾（T 11 E）より優秀
な日本人船員として積極的に超近
代化船（一一名）船に取り組むべ
きであると表明されました。
その後懇親会に入り、中華料理の
旨さに舌鼓みを打ちながら自己紹
介、新旧校歌合唱、そして若き青
年大又育夫（S 55 E）のリーダー
による万歳三唱で来年の再会を約
し散会しました。

和（S 29 N）稻葉三子夫（S 29 N）壁谷又
西村潔（S 32 E）桑嶋収平（S 31 N）
彦（S 38 E）上山弘晃（S 36 N）
足立健太郎（S 40 N）松波俊人
(S 40 N) 前田文一郎 (S 41 E)
松本昌治 (S 41 E) 松宮正博 (S
43 E) 吉村祐一 (S 49 N) 大又育
夫 (S 55 E)
本部側・・落合弘明 (S 22 N)
(大塩記)

(S 16 E) 西川慶堂 (S 17 N)
小浜忠 (S 17 E) 中村浅吉 (S 18 N)
上野和泉 (S 19 E) 松本 幹
(S 19 E) 磯崎英夫 (S 21 E) 杉
本美市 (S 21 E) 谷友也 (S 21 E)
三宅文雄 (S 21 E) 落合弘明 (S
22 N) 斎藤希一 (S 22 N) 都地健
藏 (S 22 N) 西飯高志 (S 22 N)
成瀬正雄 (S 22 E) 竹内茂七 (S
24 N) 松本暢生 (S 26 N) 斎藤隆
(S 27 E) 田中健介 (S 27 E) 小
出政夫 (S 32 E) 中村武史 (S 39
(S 43 E) 江崎隆夫
(S 44 E) 小山道夫 (S 49 N) 佐
藤久米男 (S 49 E) 下村安秋 (S
51 E) 中西一豊 (S 55 E) 清水栄
喜 (S 56 E) 松岡信也 (S 57 E)
☆谷水鳥羽海上保安部長就任祝賀会

西川慶堂（17N）斎藤希二（22N） 都地健藏（22N）竹内茂七（24N） あります。

記念講演

高専教育一〇〇年 海の国日本の現状

記念講演

高専教育一〇年 海の国日本の現

全日本船舶職員協会会長（本会会長評論家・ラジオ日本ニュース論説キャスター）

和田春生

こう言つては恐縮でございます
が、この場に祝電をお寄せいただ
いた代議士の諸君も、私も国会に
おりましたけれども、だれも真剣
に考えていないと言つてもいい。
そういうことを言うのは、船員出
身の数少ない議員だけしかいない。
こういう状況でござります。残念
な次第であると考えております。
さて、それならもつともつと船

そうなると、東南アジアの船員諸君を使いますなら、日本人船員の五分の一ぐらいのコストでやれることになります。さあそうなると日本人船員だけを使つてやつてはいけない。海運会社も苦しいわ

ながら純粋培養の日本船の積みと
比率は二割そこそこしかない。
一方、輸入の方を見てみますと
いま純粋培養という言葉を使いま
したけれども、日本人船員が乗り
込んで、日本が動かしているとい
う日本商船隊の積みとり比率は四
十一%、外国債船の比率が二十六
六%ですから両方たししますと六
七、六%、約三分の一は広い意味
での日本船が運んでおります。何
とか輸入の方は頑張っているな
こういうふうにいえるのですが、
実はこれが日本の海運が非常に苦
しくなってきたことの根本原因の
一つなのです。
それは輸出と輸入と一口で言い
ますけれども、品物が違うのです
ね。先ほど日本の国民生活にかか
わっているものは、ほとんど輸入
じゃないか。船なくしては、どう
にもならないのだ、こういうこと

積んで運ぶ時には運賃はものすごく高いことは御承知のとおりでございます。荷物の値打ちに關係してくるわけです。

去年の統計は、もう役に立ちません。原油一バレルが二十何ドルとかいつておつた時、二百五十円、二百六十円、二百八十円だつた昭和五十八年・五十九年・六十年という統計は値段の面では全然ダメですね。いまやバレル当たり十ドルぐらい、アラブ首長国連邦で出しているスポットものでは七ドルというのが出ております。

石油の産出国は四苦八苦しておるわけですが、円高になりましたから船が運ぶ一トン当たりの原油の値段というものは平均で大体二万円と見ていいわけですね。

次に、鉄鉱石は一億二千万トン、金額にして七千億円で、一トン当

六百万トンの輸出 これで稼いだ金といいますか、価格は六兆円、一トン当たり百万円。自動車一台平均すると一トンぐらいですから、大体高いもので輸出価格が百万円ぐらいです。

さてそうすると、輸入の原材料の中で比較的高いものでも、一トン当たり四万円の荷物である。鉄鉱石が一番割が悪い。船会社は鉄鉱石を運んでいたのではもうからない。

ところが、電気製品はトン当たり二百五十万円の品物を運ぶわけでございますから運賃だって当然十倍、十五倍、二十倍稼げます。

輸入する方の運賃が安くても、大きい船をもつていて大量に運んでこなければいけないという面で、日本船の積みどり比率が非常に高い。少量の荷物で高い運賃が稼げるという輸出の関係では、日

を申し上げました。ところが輸入しているのは、原材料がもっぱらなのです。そこで、どういうことになるかを、わかりやすくお話ししてみたいと思うのですが、輸入の場合、石油は約二億トンを船で運んでおるわけです。日本のタンカーも大活躍をしております。

ところが、運んでくる荷物は原油が中心ですね。これを運ぶ値段はどれくらいのものか。運賃は、積んでいる荷物の値段に關係していくわけですね。ダンプカーで捨てる泥を運ぶ運賃は非常にやさいわけです。精密器械をトラックに積んで運ぶ時には運賃はものすごく高いことは御承知のとおりでございます。荷物の値打ちに關係していくわけです。

去年の統計は、もう役に立ちません。原油一バレルが二十何ドルとかいつておつた時、二百五十円、二百六十円、二百八十円だった昭和五十八年・五十九年・六十年という統計は値段の面では全然ダメですね。いまやバレル当たり十ドルぐらい、アラブ首長国連邦で出しているスポットものでは七ドルといふのが出ております。

石油の産出国は四苦八苦しておるわけですが、円高になりましたから船が運ぶ一トン当たりの原油の値段というものは平均で大体二万円と見ていいわけですね。次に、鉄鉱石は一億二千万トン、金額にして七千億円で、一トン当

きります。工作機械その他が一千万トン、十二兆円でございますから、トン当たり百二十万円。

次に自動車は輸出産業の花形でございますが、大量生産ですから品物としては余り高くない。大体六百万トンの輸出、これで稼いだ金といいますか、価格は六兆円、一トン当たり百万円。自動車一台平均すると一トンぐらいですから、大体高いもので輸出価格が百万円ぐらいです。

さてそうすると、輸入の原材料の中で比較的高いものでも、一トン当たり四万円の荷物である。鉄鉱石が一番割が悪い。船会社は鉄鉱石を運んでいたのではもうからない。

ところが、電気製品はトン当たり二百五十万円の品物を運ぶわけ大きい船をもつていて大量に運んでこなければいけないという面で、日本船の積みどり比率が非常に高い。少量の荷物で高い運賃が稼げるという輸出の関係では、日

本船の積み取り比率が非常に少なくなっている。

海運国日本としては、実を言うところでは逆さまのことをやつているわけです。

タンカーもだんだん大型化していきまして二十万トン・三十万トン・四十万トン・五十万トンとはやし立てられた時代がございました。これは、造船所に行つて技術者の方とお話しすればわかるように、いろんな近代的技術を使っておりますけれども、あんなものは簡単には言えず大きな鉄の箱をこしらえてエンジンを載せればタンカーになつちやうわけですから、日本の造船所がタンカーでやつとるうちに、韓国や台湾にある中華民国の造船所からぐんぐん追いあげられて、競争に負けるようになつていつた、こういうことになつてくるのです。

同じエネルギーであつても、LNG(液化天然ガス)は単価が非常に高いわけです。LNG船なんていふものは、非常に高度な技術を要する船になつてくる。

同時に機械金属製品というものは、それほどの重量何万トンなんといふのはいらない。もつと小粒で小回りのきくスピードの速い船が適合していく。こういう面で、日本海運は国際競争に四苦八苦しめているというのが現状でございま

す。

日本にとつて必要なもので、日

本船が独占するわけにはいけません。そんなことをすれば袋だたきに遭うわけですが、少なくとも日本が輸出する、輸入をするというのも五十%以上は自分の国の船で運んでおるということが必要であります。同時にそれは安全保障

という点でも大事なことです。ある船会社の社長さんとお話ししている時に、その人は決して悪気じやない、そう思つていらつしやるのですけれども、「こんなに日本人の船員の賃金が国際価格で高くなるということでは、日本人船員を使つておつたのは、国際競争にならん。五分の一の賃金で働く日本人船員を使うということは、船主としては本当につらいのだ。しかし、職員には優秀な船員を得なくちゃならないから苦労しているのだ」といわれるのです。私は「それならあなた方全部外国人船員にして、船は日本船主が持つて動かすということにすれば、大いに採算上都合がいいとお思いでしょうか」と言うと「そうだ」と答えられる。

しかし、それはいま日本船がある程度頑張つてゐる。その補完的な要員として外国船員を使つているからいいのですけれども、仮にそれが全部フリーピン人船員にならいいのですけれども、僕はこれが全部フリーピン人船員になるよ。ということができるけれども、重要な部分は、日本人船員が握つて日本人船員になり韓国人船員になる。何か一たん緩急があ

る時に日本が戦争というのではありませんよ。どこかで戦争が起きて、海上運送が危険になつてくることがあります。

こういった時に、本当に危ないところへいつて日本の国民のための品物を運ぶことに、外国人の船員が気持よく働いてくれるでしょうか。「わしややめた」と言つて逃げた時に、何で補充するのでしようか。

「行つてもいいよ。その代わり高い危険手当をよこせ」とべらぼうな賃金を要求され、「日本の船員に払つてゐる賃金と同じ賃金なりしは、それに割り増しをしてくらべるなら、われたちも行かんことではない」と言つた時に、どうするのですか。

「ノー」と答えたら、じやあストライキだと言つて、フィリピンのマニラとかホンコン、シンガポールで船がとまつたら、どうするのですか。

その時に、外国の船主は助けてくれるのでしようか。こういうお話しをしました。「それは、考えていないなかつた」と言われる。それが、問題なのです。つまり、いまは何

國人船員に握られているという時に、そういうことになつたらどうなるか、ということを考えておかなくてはいけません。

安全保障というのは、單に自分たちが戦争になつた場合のことでの国が戦争になつた場合のことではない。海には、何が起ころかわからない。イラン、イラク戦争も幸いホルムズ海峡はアメリカとかイギリス、フランスの軍艦が守つてくれているけど、アメリカやイギリスの軍艦が守らないといふことになつたら、日本船だつてどんな目に遭つていたかわからない。

そういう問題もあるのですが、非常に困つたという時に、本当に日本人のために日本人がやろう。日本の國を救わなくちゃいけないというのは、日本の民族・日本の國民が中心にならなくちゃいけない。

外国でも、金をもらえるなら助けてやろうという者がおるかもわからないけれども、それに頼り切つてになつた時に、何が起こるかと云ふことを考へざるを得ません。

開発途上国といえども、だんだん発展をしてまいつております。権利意識というのも高くなつております。既に今日そういうトラブルも人的に起きております。日本の船員とそういう東南アジアの船員との収入が余りにも離れ過ぎてゐる。

しかし、船に乗つてもららう賃金面に対しても日本人の船員で動かせるというゆとりもある。トラブルは時々起つたのですが、起つたときつても日本人の船員で動かせる。それが全部フリーピン人船員になるよ。ということができるけれども、重要な部分は、日本人船員が握つて日本人船員で動かせるよ。重い面に對して構造転換をしていくことが非常に必要でございます。

その点は満足しているけれども、だんだんなれども、日本人船員と余りにも差があるじゃないか。どうしてくれるのだ。もつと賃金よこせ。こういう要求が出てくるようになるのは当たり前ですよ。

そこで強敵は何かというと、航空機でございます。スピードの時速いのにはかなわんのですね。ところが、飛行機はどんなに大き

きくなつたつて、船にはかないませんよ。いま民間の一番大きなジャンボ貨物機でも、最大積載量を重量トンでいいますと九十トンなっています。ジャンボの倍のものがで、それでも、せいぜい百八十、百九十分、これしか運べないわけです。船の方は、内海のちよつとしたところを走つておるのでも何百トンという船が幾らもあるわけです。しかし五千トン、一万トンだ、二万トンだ、三万トンだ、そういう点では、船の方が大量輸送にはプラスがある。しかし、スピードの点では劣る、ということになります。

それをどうするか。考えなくちやいけませんね。飛行機の最大重量トントンを百トンとみる。これは一機である。一万トンの船の重量トントンは一隻で百機分も運べるということになります。

日本の輸出国で、アメリカとは切つても切れないことは御承知のことなります。

日本は輸出で、アメリカは輸入でござります。日本は輸出の三十七%、輸入の二十%をアメリカに依存しているのでございまして、あとの国は一ヶ以下なんです。

したがつて、アメリカと日本の間に一番荷動きが大きいわけです。

が、今日のスピードの速い貨物船でも十日間、飛行機は十時間、何と二十四倍の差がある。しかも、船は毎日毎日アメリカ航路へ出帆しているわけではなく、積みおりしに平均五日をみて十五日ぐらい

かかることになる。飛行機の方は、航空便を使えば毎日のように飛んでおります。積みおろしを含めて一日でいい。そのところで大体十四日ぐらいの差ができます。

荷主さんにしたらどうだろう。寝かせている間は金にならない。金利を計算しなくちゃいけない。

当然でございます。

飛行機で運んでいる貨物の値段というのは、大体どれくらいか調べてみました。一キログラム当たり正均一万円の品物、高い品物を中心に運んでいます。したがって運賃も高いわけです。

これを十五日間寝かせるということになると、金利七、五%として一日当たり約二円につきますか

ら、一トントンに換算しますと、船積みながら出してから向こうまでいくと三万円ぐらいの金利がかかる勘定です。飛行機ならその日のうちに運んでしまう。それだけの差ができる。

スピードを速めることが必要になりました。いま十日間というものは、船の速度を二十ノットとみているのですが、これを仮に六十ノットぐらいにもつていくことに

なるとどうなるだろう。そうすると、航海時間を三分の一に短縮できる

ことがあります。それを、これからどうやう二人体制になつてきております。

航空機のパイロットは、新しいものは機長と副操縦士一人といふ

う二人体制になつてきております。船だつて将来はそれくらいで動かすようにならないといけません。

いままでは、船は走るのが航海である。港に着けば荷役の作業と

いうものがあり、船が出る時にはスタンバイ作業を全部でやるといふように三つに分かれていた。

荷役の作業については、陸上か

りませんですね。

商船学校の教育も、校長先生以

下いま御苦労なさつておりますが、近化化船の実験船が百五十隻ほどございます。乗組員の数が十八名で出発をいたしまして、いま十六名になつております。

この近代化船の行く先というのは、大体六名ぐらいを目標にしております。

この仕事は、出てから着くまでの仕事は、出でから着くまで

切りかえてしまつて、スタンバイとして航海作業の一環と考えられ

ておつたけれども、この考え方

に至るまでは陸の仕事である。船

は開けないと思います。

日本は、それをやれる資金も技術もあるのです。なぜ、できない

か。私は根本的な原因是、日本国民の理解が不足ですから、国会でも選挙を対象とする議員の諸君か

ら私はいわれました。

「和田さん、あんた船のことを一生懸命やつておるけど、そんなものは票にもならんし、金にもならんからやめておけ。もつと、ほかの仕事をやりなさい。そしたら選

挙も強いですよ」と。

本当に国民の間には海運とか船の仕事をやりなさい。そしたら選

挙も強いですよ」と。

彼らの支援があるけれども、船が港から出て走り出すことになる前の

出港準備中というの、船の作業として航海作業の一環と考えられ

ておつたけれども、この考え方

に至るまでは陸の仕事である。船

は開けないと思います。

この仕事は、出でから着くまで

切りかえてしまつて、スタンバイ

として航海作業の一環と考えられ

ておつたけれども、この考え方

に至るまでは陸の仕事である。船

は開けないと思います。

という考え方方が日本国民には充満いたしております。それだけ船員に対する尊敬も、外國に比べると

少ない

私も、外国航路をやつております
した。私はキャプテンではあります
せんでしたが、キャプテンに対する
尊敬は大したものでした。日本で
は、船長をしていた人が陸上の重
要なひとつ企業のトップにつく
というような時に、名刺に船長と
いうような肩書きをつけたて、
もらつた人は目をパチクリするだ
けです。

ところが、キヤブテンの資格を持つている人が外国へ行く時に、キヤブテンという肩書きをつけた名刺を示せば非常な尊敬の念を持つて見られます。

百十周年というものを考慮に入れられて、めずらしい切手を発行していただいたわけでございます。これを機縁に海運なり船の重要性をPRしていくだく。そして、そういうような政治的な機運というものが高まつてくると、よーし、そういう方向に向けていかなければいけないのではないか、ということになつてくると思うのです。

「日本丸」はできましたけれども、「海王丸」はまだ代船ができません。予算の折衝で、運輸省は一つ一つ言つておるわけです。できるかどうかわからぬ。われわれみんな一生懸命応援をいたしております。

会で、優秀な練習帆船をつくるべき日で、二百億円近い金を一巻に可決をして建造したのは、運動もさりながら、それに対応するだけの気持ちというものが、海の国日本として政界にあつたからなのです。いまの国会だつたら幾ら商船大学、商船高専、同窓会あるいは学校のある鳥羽の町を初めそれぞれが運動したつて、そんなものは通用しないのじやないでしようか。

ないですね。
ところが、いま
な客船は一隻もござ
といふとヨツトヒ
フイン、モーター
かが中心になつて
もうちよつとで
たらどうでしよう
外国では、ちや
ます。幾つかの例
れども、時間の関
紹介申し上げます

もう一つはノルウェーです。日本と同じようにこの国は海運国です。日本より船の数は少ないけれども、馬力はすごい。バイキングの元祖でございますから。

本と同じようにこの国は海運国です。日本より船の数は少ないけれども、馬力はすごい。バイキングの元祖でございますから。これが世界最大の客船を二隻くつておりまして、建造費は一隻三百億円。これがまたすごいやうです。七万総トン、乗客の収容者が二千二百七十人。お客さん用のデッキが十二階あります。エレベーターを二基つける。レストランや病院もある。船室にはシャワーから、オーディオセット、テレビも整っている。さらに通信衛星を利用いたしまして、船室から直接自分の家に電話がかけられる。これも一般的な、数十万円のやつで、船賃で楽しめるようにして、大に稼ぎまくろうというものでございます。ノルウェーの船主の計算では六年で元を取る、となかなかきいことをいつております。

ところが、日本では年金の積み金を利用する“年金客船”をつらうじやないかと海の団体が呼んで

しかし、十分できると思いますよ。日本はお金が余っているのです。余っているから財テクとかマネーネームといったものが非常に盛んになっているのです。その上、技術もあります。こういう夢のようない計画をもつと取りあげ、鳥羽あたりが音頭をとつて、県もバツクアップしたらどうでしようか。見込みがありそうになつてくれば、かけでも全然反応がないあります。

見込みがありそうになつてくれは
職先もまたふえるという形で大変
結構ではないかと、夢のよう
な話ですが、希望を申し上げまし
て私の話を終わらせていただきま
す。(了)

学校だより

☆坂本・矢追教官

国語担当教官として学生間に人気の高かった坂本幸男教官が、三月三一日付で定年退官されました。

坂本教官は昭和四五年四月に県の中学校教頭から本校寮監兼国語担当教官として着任され、深い教養と誠実なお人柄から学生に慕われ、卒業後も個人的に指導を仰ぐ学生が多いことで知られています。長い間寮務主事として寮生指導に当られ、指導学生制度の導入など寮の改善に大きく貢献されました。

坂本教官は、二月二〇日教育出版センター新社から「島木赤彦全歌集」を出版されました。十数年以上の研究成果をまとめられたもので、短歌鑑賞等をはじめ、赤彦研究者の必携の書として高い評価が得られています。文芸部に所属して同教官の指導を仰いだ会員も多いこと思います。ぜひ坂本教官の劳作を御購入下さい。定価は九、八〇〇円でA5版・上製函入りです。

次にN科教官として造船学を担当されていた矢追秀保教官も二月三一日付で定年退官されました。矢追教官は昭和五一年四月、川

崎汽船(株)より着任され、企業出身の合理性を身につけられた温厚なお人柄と熱心な指導で学生間でも信奉者が多かつたことで知られています。

寮務主事として特の女子寮ノ設置等で大変苦労されました。その御苦労は察しても余りあるものがあります。四月以来も引続いて本校の非常勤講師として週二日来校されていますほか、海技大学校の非常勤講師として活躍されています。

今年度の一年生のオリエンテーションが四月二一～二三日の三日間鈴鹿青少年スポーツセンターで実施されました。通学生も多くなつたことと女子学生もいることで、オリエンテーションの形も従来とは異つたものになりつあります。工場見学としてホンダ自動車工業が選ばれました。M科があるところから従来のように四日市港で船を見学するというわけには行かなくなります。

☆春季校内体育大会

六月一六日に春季校内体育大会が開催されました。雨で一週間延びた関係で、当日は天候は良好でしたがグランドが使えない状況から、室内競技のみが実施されるという変則になりましたが、元気な学生の声が終日二つの体育館を賑わせていました。

☆力ツターダイ

七月九日今年度の校内カッター大会が池の浦で開催され、終日大声援が海面に流れました。レースはクラス対抗で行われ、N科五クラス、E科七クラス、M科三クラスと教官が参加しました。予戦、準決勝、決勝の三レースに出場したのは、優勝のN3、準優勝のN3、三位のE4Bの三チームでした。

山下新日本汽船(株)より出向されていた小山道夫(S49N)教官が

海上に復帰され、替って岡田商船

(株)より疋野哲治(S5N)教官が

着任されました。

学科改組によって、カッターを漕ぐということのないM科の学生チームも、N科若手教官の特訓により結構さまになつていきましたが

M科の大部分は通学生です。な女子学生はN科四名、E科なし、M科六名となっております。

いた守谷貞幸教官が海上に復帰されました。

☆寮関係職員の交替

やはり決勝に残るにはいま一步というところでした。学科改組が進むとカッター大会も遊び的要素が強くなるのは止むを得ない事実です。

☆一年生のオリエンテーション

今年度の一年生のオリエンテー

シヨンが四月二一～二三日の三日間鈴鹿青少年スポーツセンターで実施されました。

寮母として学生から慕われてい

た前田みちよ事務官が定年で退官されました。また鳥羽丸司厨長と

し、寮の食堂でも働いておられた

松本寅郎技官が定年退官されました。

寮母として学生から慕われてい

た前田みちよ事務官が定年で退

今後の同窓会活動

鳥羽商船同窓会の六〇年余りの活動の中で、最も輝かしい歴史を刻んだものに母校の創立百周年記念事業に対する支援体制の確立と内外に大きな評価を得た事業の成功があげられます。

募金目標額の半分すなわち一億円が同窓会員の手によって挙出されたわけであり、現在の百年記念資料館としてその形を留めてい事実は皆様御承知のとおりであります。

しかしあれからわずか数年後の現在の我が国海運界の姿はあまりにも大きく変貌しつつあります。

同時に私共の母校もかつてない大きな変革期を迎えつつあります。そこで問題になるのは今後の同窓会活動の在り方であります。

鳥羽商船同窓会は、会則の目的に、会員相互の親睦並びに人格の向上を図る。

二、常に母校と同窓会員の連絡を密にし、母校の繁栄を図り、引いては我国海運の発展に寄与する。

とあります。が、現在一、二項とも本当の意味で実行されているかという点で少なからぬ疑問が生じております。

現在のように、多数のしかも前

途に希望を以て海運界に身を投じた本会員が、止むなく陸上に転進

現れたときに、学科改組によって從来の商船学校としての母校の姿は必然的に変革せざるを得ない状況に陥り

せざるを得なくなつた事実について、この際、会として真剣に取組む必要があるように思えてなりません。

会員の再就職のためには会の組織をあげて対処する方針が確立されなければなりません。

単に「懇親」だけの同窓会では今後の活動においてその発展は望めません。

いまこそ全会員が一丸となつて会員相互のための活動を盛り上げようではありませんか。事務局には多くの若い会員から転職についての協力依頼があり、全力をあげてその支援を行つておりますが、百パーセント成功というわけには参りません。極めて厳しい状況であります。

ただ非常に残念なことは、国鉄（現在のJR）のみが会員の再就職についての協力依頼があつたのに過ぎず、三光汽船を始めとする大手、中小の海運企業からは、再就職担当者の中に本会員がおられても本会に対し再就職依頼がないことです。この点について転職希望者からはかなり厳しい批判が事務局に寄せられていることは事実であります。が、事務局に対して不満をぶつける会員も少なくありません。

会員の皆様の御理解をお願いする次第です。

次に学科改組によって從来の商船学校としての母校の姿は必然的に変革せざるを得ない状況に陥り

ます。

あと二年半過ぎには電子機械工学科の卒業生が誕生することになります。これらの卒業生が一体ど

んな分野に進んで行くのかは全く未知数です。

現在の本会員がこれらの卒業生の就職等において果して手を差し与えられませんので、いわゆる從来の工業高校出身者が位置するブルーカラー的分野に将来を賭けることになります。

母校はかつての全国区的存在か

ら、完全に地方区的存在にその立地基盤が低下しつつあります。

本会は会則どおりの会として活動を継続するのか、会則の全面的な見なおしを行つて現状に見合つた活動を推進すべく大きく転換するのか、現在極めて重大な岐路に立たされております。

少なくとも新学科の卒業生が出来る一年前までには結論を出す必要があります。会員の忌憚なき御意見を事務局にぜひお聴かせ下さい

ますようお願い申し上げます。

その際会則にあります「母校の繁栄」とは何かについても御意見を頂戴できればと思います。

死 葉 著 一 覧

下記の会員の死亡連絡がありました。謹んでお悔み申し上げます。（受付順）

卒業年度	氏名	〒	住所	遺族

事務局からのお願い

★ 勤務先、住所、電話番号の変更の連絡

勤務先、住所、電話番号の変更についてぜひお知らせ下さいます
ようお願いします。

先きに総会案内状を住復ハガキでお送りしましたが半数の約1400通が返送されておりません。目下編集中の新会員名簿発行の資料に必要ですので、総会は過ぎましたがぜひ返送して下さい。

新名簿発行を若干遅らせて待っておりますが、8月15日までに御連絡のない方は前のままの職業としますので、あとで苦情等戴かないようにお願いします。乗船中や海外出張等の場合は家族の方でぜひお知らせ下さい。

★ 会費の値上げ

総会報告のところでもお知らせしましたが、総会で会費の値上げが決定されましたのでよろしく御協力下さい。

年会費 2,000円

終身会費 20,000円 (満65才以上で会費を完納し、さらに)
(年会費10年分を前納した者)

なおすでに前納されている分について及び、終身会員の方はそのまま有効で追徴はされません。

今回会費の請求書が同封されていない方は今年度分は納入済です。

振替用紙は新会員名簿購入用として全員に同封しましたので御了承下さい。

★ FAXの設置について

母校の庶務課にFAXが設置されたので急ぎの用件で、事務局との連絡が必要な場合は下記にメモを送って下さい。

0599-25-6941

新会員名簿発行 (昭和62年度版)

8月下旬に新会員名簿を発行します。同封しました振替用紙でぜひ注文して下さい。

代金 1冊 2,500円 (送料込)

乗船中や海外出張中の方は家族の方から申込んで下さい。